

令和4年度 東京都江戸東京博物館外6施設指定管理者管理運営状況評価(一次評価)

施設名: 東京都江戸東京博物館(分館江戸東京たてもの園を含む)

※評価: ◎水準を上回る(2点) ○水準どおり(1点) △水準を下回る(0点)

		確認項目	評価水準	配点	評価	評価理由
管理状況	管理の実施状況	(1)施設設備の管理 (施設の維持補修・修繕)	適切な保守点検・修繕等を行い、来館者の安全確保に努めている。	×2	○	○江戸博では、大規模改修工事に伴う展示資料搬出や大型模型の解体作業、リニューアル準備室への移転など、工事準備を計画的に進めた。たてもの園では、復元建造物の計画的修繕に向けた設計や工事等を行った。 △江戸博及びたてもの園における工事事故について、事故報告が遅れたために、危機管理情報の共有に影響が生じた。 ○江戸博・たてもの園ともに、個人情報保護について研修及び自己点検を実施している。 ○運営委員会を開催するとともに、江戸博・たてもの園ともに、外部評価委員会を開催し、委員の意見等を日々の業務に活かしている。
		(2)危機管理 (防災・防犯への配慮、事故対応)	事故発生時、適切な対応を行い、速やかに都へ報告を行っている。	×2	△	
		(3)組織体制 (人員配置、人材育成の取組)	限られた職員数で館の効率的な運営を図っている。	×1	○	
		(4)各種法令等の遵守、個人情報保護・情報公開の取組	個人情報紛失・漏洩等事故の未然防止に努め、情報セキュリティポリシーその他法令等を遵守する。	×1	○	
		(5)業務の品質管理と自己評価	外部評価委員会の開催等、外部の意見を積極的に取り入れている。	×1	○	
管理状況	財務の状況	(1)施設の収支状況	限られた予算を効率的に執行し、収入を確実に確保する。	×2	○	○既存備品の管理や新規に買い入れた財産の報告等を適切に行っている。
		(2)外部資金等の活用	助成金・協賛金等の外部資金を積極的に活用している。	×1	○	
		(3)都有財産等(物品・現金等)の管理	必要に応じ都へ報告を行い、適切に物品等を管理している。	×1	○	
事業効果	事業の実施状況	(1)資料の管理 (収集、分類整理、記録、保管)	東京都の「収集の基本方針」に基づき、質の高い作品を収集するとともに、適正な環境で保管する。	×2	○	○江戸博では、方針に沿った資料を収集し、江戸東京の歴史を継承していくための着実な取組が行われている。 ◎資料のデジタル化について5万点以上の公開準備を行うなど積極的に取り組んでいる。また、スマートフォン用アプリ「ハイパー江戸博」やドローン映像の公開など休館中の持続的な情報発信に向けた取組も行っている。 ◎江戸博では、モース文書の継続研究やソウル歴史博物館との共同研究の成果を展覧会によって還元するなど、研究活動が活発に行われており、学芸員が芸術選奨文部科学大臣賞(部門:評論等)を受賞するなど、第三者からも評価されている。 ○常設展示室に出展していた2千点に及ぶ博物館資料の撤収、模型等の解体撤去及び保管を行うとともに、改修後の常設展示の展示計画を策定した。 ◎移動博物館として、ワークショップ19件・出張展示を3件実施し、目標回数を上回った。また、ワークショップでは都内公立小学校のほか、特別支援学校3校でも実施し、年齢や障害等に関わらずあらゆる人が芸術文化を享受できる環境を整えている。 ◎休館中の国内巡回展の準備やリニューアル記念展の検討を着実に進めたほか、ソウルとパリで国際交流展を開催するなど、休館中も様々な事業を展開した。 ◎たてもの園では、特別展を3事業・情景再現事業を5事業開催し、新規事業を盛り込むなど工夫が凝らされている。 ○たてもの園の観覧者数は214,083人で目標値に対して107%の達成率である。 ○江戸博では、東京都美術館でのえどはくカルチャーの実施や、たてもの園での博物館実習等の実施など、休館中も活発に都民や学生に対する貴重な学びの機会を提供している。 たてもの園では、幅広い層を対象とした様々なプログラムを積極的に展開している。 ○江戸博では、リニューアル準備室内図書室の開設や閲覧サービスの実施など、休館中も図書室の運営を着実に進めた。 ○江戸博では、過去の活動や他館の調査を踏まえ、新たなボランティア活動の方針や概要を作成した。
		(2)資料の活用 (貸出・借受外、資料情報システム、映像ライブラリー、収蔵品の公開等)	作品貸与やデジタル・アーカイブに積極的に取り組むなど、収蔵作品の効果的な活用を図る。	×2	◎	
		(3)調査・研究	江戸東京の歴史と文化に関する魅力あふれる研究を実施するとともに、収蔵品の調査研究活動の成果や資料情報を広く国内外に発信する。	×2	◎	
		(4)常設展・企画展の内容	リニューアルオープンに向けた準備を着実に進めるとともに、常設展示の内容をベースにした移動博物館を実施する。	×2	○	
		(5)常設展・企画展の回数	移動博物館の実施回数5回	×1	◎	
		(6)特別展等の内容	リニューアルオープンに向けた準備を着実に進めるとともに、収蔵品を活用し館外で展覧会を実施する。	×2	◎	
		(7)特別展等の回数	館外での展覧会の実施回数2回	×1	○	
		(8)たてもの園の事業内容	復元建造物を活かし、江戸東京の生活や商いの諸相を再現し、歴史や文化を体験してもらう。	×2	◎	
		(9)たてもの園の入場者数	観覧者数 200,000人以上	×1	○	
		(10)教育普及事業	講座、体験事業、アウトリーチなど、子供、高齢者、障害者、外国人に江戸東京の歴史と文化を学べる環境を提供するとともに、社会的課題の解決に取り組む。	×2	○	
		(11)図書室の運営	江戸東京に関する図書や定期刊行物を広く収集し、提供する。	×1	○	
		(12)その他の事業	ボランティアの活用や友の会との連携等、その他の事業についても適切に実施している。	×1	○	
事業効果	運営の実施状況	(1)休館日及び開館時間	ニーズを踏まえ臨時開館や開館延長を行っている。	×1	○	○たてもの園では、桜の開花の時期に臨時開館を行うなど、利用者・都民サービスの観点から弾力的に対応している。 ◎たてもの園では、都HITの取組の一環で、夏の過ごし方のイメージ動画を制作し、ツイッターや都庁のデジタルサイネージにて映像を公開するなど、都の政策に大きく貢献している。 ○江戸博は両国協会との連携により、情報発信を行っている。たてもの園では、「下町夕涼み」ライトアップ」で地域飲食店の協力を得て飲食を提供するなど地域との連携を図っている。 ◎江戸博は休館中もホームページやSNSを通じて広報活動を行い、フォロワー数を着実に伸ばしている。たてもの園はツイッターフォロワー数が約1,600人増とともに、パノラマビューを使った広報活動では、質を高めるためのシステム改修を行い活用の幅を広げた。
		(2)都及び関係機関との連携・協力	都や他の博物館等との連携・協力体制を維持・発展させる。	×2	◎	
		(3)地域連携	地域と連携した事業や広報活動を行っている。	×2	○	
		(4)施設及び附属設備の貸出	伝統文化を国内外に向けて発信する等、幅広い用途で貸出を行う。	×1	○	
		(5)広報、プロモーション	HPやSNSをはじめとする様々な媒体での魅力発信に努める。	×2	◎	
事業効果	施設サービスの実施状況	(1)多様な利用者に配慮した施設設備	施設設備面におけるバリアフリー化を推進している。	×2	○	○江戸博では、展示情報の多言語化に向け、展示パネルの英訳に取り組んでいる。 ○江戸博では、休館中もSNSを活用してミュージアムショップの商品情報を発信したほか、たてもの園のショップにも江戸博コーナーを設け商品を紹介したり、オンラインショップのページを新しく改修するなど、ミュージアムショップの運営に努めている。たてもの園では、展覧会に合わせての書籍の紹介や、オリジナルグッズの開発に取り組んでいる。 ○たてもの園では、アンケートでの要望把握を受けた迅速な情報共有や、授乳室の設置など、ホスピタリティの向上に努めている。 ◎たてもの園の顧客満足度(総合満足度)は99.2%で高い数値を維持できている。
		(2)案内・表示	館内サイン等について、多言語対応、バリアフリー化を積極的に進めている。	×1	○	
		(3)館内サービス (基本的サービス、飲食・物販施設)	商品の充実等を図り、魅力的な飲食・物販施設等の運営を行っている。	×1	○	
		(4)館内ホスピタリティ、苦情対応	委託業者等とも綿密に連絡を取り、ホスピタリティの向上に努める。	×1	○	
		(5)顧客満足度指標	総合満足度の割合	×1	◎	
		(6)その他 (利用促進に向けた新たな取組)	利用者アンケート等により顧客ニーズを把握し、サービス向上に努める。	×1	○	
総合	方針と目標の達成状況	基本方針と達成目標	・各定性・定量目標を着実に達成している。 ・事業計画に基づく、適切かつ継続的な事業運営が行われている。 ・多彩な事業がバランスよく実施されている。	×2	○	○江戸博・たてもの園ともに、事業計画の基本方針に沿って、事業運営が適切に行われている。江戸博は、休館中においても、海外展示の実現やデジタルコンテンツの作成、調査研究など、着実な事業の遂行と新たなチャレンジを両立させている。

【一次評価結果】

得点	一次評価結果
59	A

標準点	評価基準	点	基準
47点	評価基準	S	63点以上
		A	59～62点
		B	42～58点
		C	41点以下

指定管理者の財務状況
財務状況には課題がなく、健全化に向けた取組が行われている。

特命要件の継続	特命要件	有	無
運営にあたって、都政と連動し、時代の要請に柔軟かつ迅速に対応する。		○	
幅広い分野における資料・作品の収集、保存・管理や調査研究を行うとともに、魅力的で創造性豊かな事業や展覧会を実施する等、専門性・学術性が極めて高い。		○	
各施設の取り扱う幅広い分野の専門人材、ノウハウ、他機関とのネットワークを豊富に有する。		○	

※評価水準欄に記載された事項を中心として、確認項目毎に実施内容を総合的に評価する。

特記事項	
要改善事項等	

令和4年度 東京都江戸東京博物館外6施設指定管理者管理運営状況評価(一次評価)

施設名: 東京都写真美術館

※評価:◎水準を上回る(2点) ○水準どおり(1点) △水準を下回る(0点)

		確認項目	評価水準	配点	評価	評価理由
管理状況	管理の実施状況	(1)施設設備の管理 (施設の維持補修・修繕)	適切な保守点検・修繕等を行い、来館者の安全確保に努めている。	×2	○	○自衛消防訓練等のほか、展示室内のレイアウト変更を踏まえた展覧会ごとの避難訓練を継続して実施するなど、防災対策の強化・向上を図っている。 ○事故等が発生した場合にも、速やかに都へ報告を行い、迅速にその後の対策を実施する等、適切な対応を行っている。 ○幹部会や学芸ミーティング、スタッフ連絡会等の、職員及び委託業者間の情報共有を定期的に行い、館の効率的かつ一体的な組織運営に努めている。 ○職員に対し、個人情報の適切な管理・取扱いに係る情報セキュリティ研修や自己点検を実施させ、情報セキュリティ管理意識の向上に努めている。 ○企画諮問会議や外部評価委員会の設置、顧客満足度調査の実施により、事業内容の点検と、結果の施設運営への反映を適切に実施している。
		(2)危機管理 (防災・防犯への配慮、事故対応)	事故発生時、適切な対応を行い、速やかに都へ報告を行っている。	×2	○	
		(3)組織体制 (人員配置、人材育成の取組)	限られた職員数で館の効率的な運営を図っている。	×1	○	
		(4)各種法令等の遵守、個人情報保護・情報公開の取組	個人情報紛失・漏洩等事故の未然防止に努め、情報セキュリティポリシーその他法令等を遵守する。	×1	○	
		(5)業務の品質管理と自己評価	外部評価委員会の開催等を通し、外部の意見を積極的に取り入れている。	×1	○	
	財務の状況	(1)施設の収支状況	限られた予算を効率的に執行し、収入を確実に確保する。	×2	○	
		(2)外部資金等の活用	助成金・協賛金や支援会員制度等を通じた外部資金獲得に積極的に取組む。	×1	○	
		(3)都有財産等(物品・現金等)の管理	必要に応じ都へ報告を行い、適切に物品等を管理している。	×1	△	
		(4)資料の管理 (収集、分類整理、記録、保管)	東京都の「収集の基本方針」に基づき、質の高い作品を収集するとともに、適正な環境で保管する。	×2	△	
		(5)資料の活用 (貸出・借受外、資料情報システム、収蔵品の公開等)	作品貸与やデジタル・アーカイブに積極的に取り組み、収蔵作品の効果的な活用を図る。	×2	○	
事業効果	事業の実施状況	(3)調査・研究	国際的な視点を踏まえた調査研究を行い、その成果を紀要やシンポジウム等で都民に還元する。	×2	○	
		(4)収蔵展の内容	収蔵作品を最大限活用し、質、満足度ともに高い展覧会を開催する。	×2	○	
		(5)収蔵展の入場者数	来場者数80,190人以上。	×1	◎	
		(6)自主企画展、上映事業、国際交流事業等の内容	多様な切り口での魅力的な展覧会を開催する。	×2	◎	
		(7)自主企画展、上映事業、国際交流事業等の入場者数	自主企画展来場者数64,026人以上、上映事業来場者数20,004人以上。	×1	○	
		(8)教育普及事業	写真愛好家だけでなく、子供、シニア層、子育て世代、障害者など対象者に応じた多様な教育普及事業を実施し、社会的課題の解決に取り組むとともに、芸術文化の支え手の裾野を広げる。	×2	◎	
		(9)図書室の運営	写真・映像の専門図書館として、作家・他美術館とのネットワークを活かした収集等を行う。	×1	○	
		(10)その他の事業	ボランティアの活用等、その他の事業についても適切に実施している。	×1	◎	
		運営の実施状況	(1)休館日及び閉館時間	ニーズを踏まえ臨時開館や閉館延長を行っている。	×1	○
			(2)都及び関係機関との連携・協力	都や他の美術館等との連携・協力体制を維持・発展させる。	×2	◎
	(3)地域連携		地域と連携した事業や広報活動を行っている。	×2	○	
	(4)施設及び附帯設備の貸出		1階ホール稼働率90%以上、誘致展の来場者数63,780人以上。	×1	◎	
	(5)広報、プロモーション		HPやSNSをはじめとする様々な媒体での魅力発信に努める。	×2	○	
	施設サービスの実施状況		(1)多様な利用者に配慮した施設設備	施設設備面におけるバリアフリー化を推進している。	×2	○
			(2)案内・表示	館内サイン等について、多言語対応、バリアフリー化を積極的に進めている。	×1	○
			(3)館内サービス (基本的サービス、飲食・物販施設)	商品の充実等を図り、魅力的な飲食・物販施設等の運営を行っている。	×1	○
			(4)館内ホスピタリティ、苦情対応	委託業者等とも綿密に連絡を取り、ホスピタリティの向上に努める。	×1	○
			(5)顧客満足度指標	総合満足度の割合	×1	◎
		(6)その他 (利用促進に向けた新たな取組)	利用者アンケート等により顧客ニーズを把握し、サービス向上に努める。	×1	○	
	総合	方針と目標の達成状況	基本方針と達成目標	×2	○	○収蔵展、自主企画展ともに高い評価を受けており、年度当初に立てた来場数の目標値に対してもほとんどが上回る実績となった。また、ボランティアを活用した取組や、教育普及事業、地域連携事業等にも力を入れている。

【一次評価結果】

得点	一次評価結果
51	B

標準点	評価基準	S	59点以上
44点		A	55～58点
		B	39～54点
		C	38点以下

指定管理者の財務状況
財務状況には課題がなく、健全化に向けた取組が行われている。

特命要件の継続		
特命要件	有	無
運営にあたって、都政と連動し、時代の要請に柔軟かつ迅速に対応する。	○	
幅広い分野における資料・作品の収集、保存・管理や調査研究を行うとともに、魅力的で創造性豊かな事業や展覧会を実施する等、専門性・学術性が極めて高い。	○	
各施設の取り扱う幅広い分野の専門人材、ノウハウ、他機関とのネットワークを豊富に有する。	○	

特記事項	
要改善事項等	

※評価水準欄に記載された事項を中心としつつ、確認項目毎に実施内容を総合的に評価する。

令和4年度 東京都江戸東京博物館外6施設指定管理者管理運営状況評価(一次評価)

施設名: 東京都現代美術館

※評価: ◎水準を上回る(2点) ○水準どおり(1点) △水準を下回る(0点)

		確認項目	評価水準	配点	評価	評価理由	
管理状況	管理の実施状況	(1)施設設備の管理 (施設の維持補修・修繕)	適切な保守点検・修繕を行い、来館者の安全確保に努めている。	×2	○	○モニタリング調査においても問題点の指摘はなく、日常の維持管理が適切に行われている。	
		(2)危機管理 (防災・防犯への配慮、事故対応)	事故発生時、適切な対応を行い、速やかに都へ報告を行っている。	×2	○	○検温や消毒液の設置など、新型コロナウイルス感染症の対策を取りながら着実な美術館運営が行われており、来館者の安心にもつながっている。	
		(3)組織体制 (人員配置、人材育成の取組)	限られた職員数で館の効率的な運営を図っている。	×1	○	△ミュージアムショップを運営する委託事業者の個人情報の管理について、一部不適切な事例があった。委託業者を含めた、一層の情報管理の徹底に取り組む必要がある。	
		(4)各種法令等の遵守、個人情報保護・情報公開の取組	個人情報紛失・漏洩等事故の未然防止に努め、情報セキュリティポリシーその他法令等を遵守する。	×1	△	○運営諮問委員会、外部評価委員会を開催し、委員からの意見等を日々の業務に活かしている。	
		(5)業務の品質管理と自己評価	外部評価委員会の開催等を通し、外部の意見を積極的に取り入れている。	×1	○		
	財務の状況	(1)施設の収支状況	限られた予算を効率的に執行し、収入を確実に確保する。	×2	○	○4本の企画展で入場料収入が目標を上回っており、収支状況は黒字決算となっている。	
		(2)外部資金等の活用	助成金・協賛金等の外部資金獲得に積極的に取り組む。	×1	○	○既存備品の管理や新規に買い入れた財産の報告等を適切に行っている。	
		(3)都有財産等(物品・現金等)の管理	必要に応じて都へ報告を行い、適切に物品等を管理している。	×1	○		
		(4)資料の管理 (収集、分類整理、記録、保管)	東京都の「収集の基本方針」に基づき、質の高い作品を収集し、適正な環境で保管する。	×2	○	○調査・研究は適正に行われており、各企画展における学芸員論考を掲載したカタログの制作、研究紀要の発行、解説ツアーや講座の開催を通じて、広く研究成果を都民に還元している。	
		(5)資料の活用 (貸出・借受外、資料情報システム、収蔵品の公開等)	作品貸与やデジタル・アーカイブに積極的に取り組み、収蔵作品の効果的な活用を図る。	×2	○	○東京都美術館時代からのコレクション形成の歴史を紐解く展示や、若手作家の新規収蔵作品を積極的に活用した近年の動向を示す展示など、年間を通じて多様な収蔵作品をバランスよく紹介している。また、企画展との相性や補完性にも配慮した展示を展開することで、館の一体感を創り上げている。	
事業効果	事業の実施状況	(3)調査・研究	国際的な視点を踏まえた調査研究を行い、その成果を紀要やシンポジウム等で都民に還元する。	×2	○	○調査・研究は適正に行われており、各企画展における学芸員論考を掲載したカタログの制作、研究紀要の発行、解説ツアーや講座の開催を通じて、広く研究成果を都民に還元している。	
		(4)常設展の内容	常設展の実施を通して現代美術の成り立ちや魅力を紹介する。	×2	◎	◎東京都美術館時代からのコレクション形成の歴史を紐解く展示や、若手作家の新規収蔵作品を積極的に活用した近年の動向を示す展示など、年間を通じて多様な収蔵作品をバランスよく紹介している。また、企画展との相性や補完性にも配慮した展示を展開することで、館の一体感を創り上げている。	
		(5)常設展の入場者数	130,000人以上。	×1	△	△一方で、常設展の入場者数目標には届かなかった。(実績104,290人、達成率80.2%)	
		(6)企画展等の内容	国内外で注目される幅広いテーマやジャンルから選んだ企画を実現し、多様で魅力的なラインナップで開催する。	×2	◎	◎年間を通じて、質の高い多彩な展覧会が開催された。特にディオール展は展示内容、空間演出などが多くのメディアで取り上げられるなど注目すべき成果をあげた。	
		(7)企画展等の入場者数	300,000人以上。	×1	◎	◎企画展の入場者数は359,433人で目標達成率は119.8%だった。	
		(8)教育普及事業	特別支援学級を含む学校への対応や、高齢者及び障害者等に向けた鑑賞プログラム、ワークショップなどにより、東京の社会課題に向き合うとともに、様々な体験事業を通して現代美術の普及に取り組む。	×2	○	○図書室は感染症対策のため、利用制限を実施したこともあり、目標には届かなかったが、段階的に利用枠の拡大を図ることで前年度実績に対して利用者を倍増させることができた(13,950人、達成率56%)。	
		(9)美術図書室の運営	国内有数の規模を誇る美術専門図書室として専門性を高めるとともに、特色ある「こどもとしよつ」も積極的に活用する。	×1	○	◎ボランティアによる作品解説を実施するとともに、作品解説カードの配布及びウェブサイトでの閲覧を可能とするなど、積極的な取組が行われた。また、パスポートを贈答用として購入可能とすることで、新たなファン層の拡大に向けた取組も行われている。	
		(10)その他の事業	ボランティアの活用等、その他の事業についても適切に実施している。また、ファン層の戦略的な拡大に向け、パスポートの活用を図る。	×1	◎	◎ボランティアによる作品解説を実施するとともに、作品解説カードの配布及びウェブサイトでの閲覧を可能とするなど、積極的な取組が行われた。また、パスポートを贈答用として購入可能とすることで、新たなファン層の拡大に向けた取組も行われている。	
		運営の実施状況	(1)休館日及び閉館時間	ニーズを踏まえ臨時開館や開館延長を行っている。	×1	◎	◎ディオール展期間中は閉館時間前の開場や、展示室の動線等の改善による入室可能人数の増、時間帯別の当日販売状況配信サイトの導入、ツイッターでの販売終了時間の発信等、待ち列緩和のための柔軟な対応を行った。
			(2)都及び関係機関との連携・協力	都や他の美術館等との連携・協力体制を維持・発展させる。	×2	◎	◎国際展・海外美術館等における調査の実施及び来日した海外機関のキュレーター・研究者・作家等との交流を行い、国際的なネットワークを広げている。
(3)地域連携	地域と連携した事業展開・広報活動を行っている。		×2	◎	◎アートブックフェアでは地域のレンタサイクル、書店、カフェ等と幅広い連携を行うとともに、江東区民祭りへのブース出展等、地域に根差した事業が多く行われている。また、培った関係性を活かし、館への集客に繋げている。		
(4)施設及び附帯設備の貸出	幅広い用途に貸し出しを図るとともに、リピーターを増やすことで、稼働率及び収入の向上を図る。		×1	○	◎ホームページのアクセス数やツイッターのフォロワー数が、昨年度より増加(HPのアクセス数:9,160,852件、達成率:152.7%。ツイッターのフォロワー数:約46,208人増)。テレビや雑誌でも取り上げられ、広報活動が結実している。		
(5)広報、プロモーション	HPやSNSをはじめとする様々な媒体での魅力発信に努める。		×2	◎	◎ホームページのアクセス数やツイッターのフォロワー数が、昨年度より増加(HPのアクセス数:9,160,852件、達成率:152.7%。ツイッターのフォロワー数:約46,208人増)。テレビや雑誌でも取り上げられ、広報活動が結実している。		
施設サービスの実施状況	(1)多様な利用者に配慮した施設設備	施設設備面におけるバリアフリー化を推進している。	×2	○			
	(2)案内・表示	館内サイン等について、多言語対応、バリアフリー化を積極的に進めている。	×1	○	○ミュージアムショップでの展覧会関連コーナーの提案や、レストラン・カフェでの展覧会ごとのオリジナルパフェの提供など、館全体で気運の醸成が図られている。		
	(3)館内サービス (基本的サービス、飲食・物販施設)	商品の充実等を図り、魅力的な飲食・物販施設等の運営を行っている。	×1	○	○大型コインロッカーの設置といった利用者のニーズに即した対応が柔軟に行われている。また、ディオール展において当日券販売状況の可視化システムを導入する等、来館者サービスに積極的に取り組んでいる。		
	(4)館内ホスピタリティ、苦情対応	委託業者等とも綿密に連絡を取り、ホスピタリティの向上に努める。	×1	○			
	(5)顧客満足度指標	総合満足度の割合	×1	◎	◎満足度(総合満足度)は95.8%と高い満足度を得ている。		
	(6)その他 (利用促進に向けた新たな取組)	利用者アンケート等により顧客ニーズを把握し、サービス向上に努める。	×1	○			
総合	方針と目標の達成状況	基本方針と達成目標	・各定性・定量目標を着実に達成している。 ・事業計画に基づく、適切かつ継続的な事業運営が行われている。 ・多彩な事業がバランスよく実施されている。	×2	◎	◎多彩で質の高い企画展に連動するコレクション展を開催し、収蔵作品の魅力を発信するとともに、現代アートの振興と継承に寄与している。また、若手作家支援や教育普及の活動においても、成果を挙げている。	

【一次評価結果】

得点	一次評価結果
58	A

標準点	評価基準	S	59点以上
44点		A	55～58点
		B	39～54点
		C	38点以下

指定管理者の財務状況
財務状況には課題がなく、健全化に向けた取組が行われている。

特命要件の継続		
特命要件	有	無
運営にあたって、都政と連動し、時代の要請に柔軟かつ迅速に対応する。	○	
幅広い分野における資料・作品の収集、保存・管理や調査研究を行うとともに、魅力的で創造性豊かな事業や展覧会を実施する等、専門性・学術性が極めて高い。	○	
各施設の取り扱う幅広い分野の専門人材、ノウハウ、他機関とのネットワークを豊富に有する。	○	

特記事項	
要改善事項等	

※評価水準欄に記載された事項を中心としつつ、確認項目毎に実施内容を総合的に評価する。

令和4年度 東京都江戸東京博物館外6施設指定管理者管理運営状況評価(一次評価)

施設名: 東京都美術館

※評価: ◎水準を上回る(2点) ○水準どおり(1点) △水準を下回る(0点)

		確認項目	評価水準	配点	評価	評価理由	
管理状況	管理の実施状況	(1)施設設備の管理 (施設の維持補修・修繕)	適切な保守点検・修繕等を行い、来館者の安全確保に努めている。	×2	○	○計画的に公募棟のペアガラス化工事を実施するなど、必要に応じた修繕、補修等を着実に実施し、展示環境保全に努めた。 ○地震・火災に対応した自衛防災訓練を適切に実施したほか、全国美術協会東京ブロック本部館として、都内美術館約60館に対する災害時の通報訓練を行うなど、積極的に危機管理に取り組んでいる。 ○引き続き感染拡大防止対策を徹底し、安全第一に美術館運営を行いながら、展覧会事業、公募展事業、アート・コミュニケーション事業、アメニティ事業等、限られた人数の中で多彩な活動を展開した。	
		(2)危機管理 (防災・防犯への配慮、事故対応)	事故発生時、適切な対応を行い、速やかに都へ報告を行っている。	×2	○		
		(3)組織体制 (人員配置、人材育成の取組)	限られた職員数で館の効率的な運営を図っている。	×1	○		
		(4)各種法令等の遵守、個人情報保護・情報公開の取組	個人情報紛失・漏洩等事故の未然防止に努め、情報セキュリティポリシーその他法令等を遵守する。	×1	○		
		(5)業務の品質管理と自己評価	外部評価委員会の開催等を通し、外部の意見を積極的に取り入れている。	×1	○		
管理状況	財務の状況	(1)施設の収支状況	限られた予算を効率的に執行し、収入を確実に確保する。	×2	○	○企画展や特別展が好評を博し、予算を上回る収入実績を得ることができた。	
		(2)外部資金等の活用	助成金・協賛金等の外部資金獲得に積極的に取り組む。	×1	○		
		(3)都有財産等(物品・現金等)の管理	必要に応じ都へ報告を行い、適切に物品等を管理している。	×1	○		
事業効果	事業の実施状況	(1)資料の管理 (分類整理、記録、保管)	適宜調査や補修等を行い、収蔵品を適切に管理している。	×1	○	◎改修休館中の江戸東京博物館の収蔵品を用いて江戸時代における源氏物語の受容と展開を紹介するなど、都のコレクションを有効に活用した展示を行い、広く一般の来館者へ鑑賞の機会を提供した。 ○認知症カフェの調査や社会的処方テーマとした分科会・英国との研究報告会を実施し、活動報告書を刊行するなど、福祉や健康と美術の関わりについて、国内外の先進的な取組を調査し、社会に発信する取組を行っている。 ◎「展覧会 岡本太郎」は展示構成とデザインに工夫を凝らし、観覧者満足度97%、図録が全国カタログ展で銀賞を受賞。また観覧者満足度95%を得た「エゴン・シーレ展」では、グラフィックと写真を効果的に用いて、シーレを取り囲む環境、時代、芸術を総合的に紹介するなど、「世界と日本の名品に会える美術館」としての使命を果たしている。 ◎特別展の入場者数は643,683人で目標達成率は117.0%だった。 ◎「フィン・ユールとデンマークの椅子」展では体験型の展示も大きな話題を集め、予想の2倍近い観覧者が来場。公募展作家を紹介する企画や都のコレクションを活用した企画も行い、新たな価値や可能性を見出す展覧会を実施している。 ◎企画展の入場者数は88,761人で目標達成率は181.9%だった。 ◎認知症の方とその家族を対象にした鑑賞プログラム、高齢者と高校生等の異世代交流プログラム等、社会包摂を意識した多彩なプログラムを展開し、活動内容についてウェブで公開するなど、アートコミュニケーション事業の普及活動も積極的に実施している。	
		(2)資料の活用 (貸出・借受外)	他の都立文化施設の収蔵資料を活用することで、鑑賞の機会を提供し、有効活用を図る。	×2	◎		
		(3)調査・研究	館独自の事業やICTを活用した事業等に関わる調査研究等を行い、その成果を広く社会に還元する。	×2	○		
		(4)特別展の内容	多様な視点で時代や地域を紹介する、質の高い芸術作品を用いた展覧会を開催する。	×2	◎		
		(5)特別展の入場者数	入場者数 550,000人以上。	×1	◎		
		(6)企画展の内容	創造や共生の場となり、「生きる糧としてのアート」と出会う場になるような展覧会を開催する。	×2	◎		
		(7)企画展の入場者数	入場者数 48,800人以上。	×1	◎		
		(8)教育普及事業(アート・コミュニケーション事業)	子供、青少年、高齢者、障害者、外国人等が主体的に参加できるプログラムの充実により、社会的課題の解決に取り組むとともに、他の自治体及び他館への普及を図る。	×2	◎		
		(9)美術情報室、アトラウンジの運営	美術情報室について、ライブラリー機能に、館のアーカイブズの役割を加え、より広範で深い美術情報を提供する場とする。	×1	○		
		(10)その他の事業	公募展活性化事業等、その他の事業についても適切に実施している。	×1	○		
	事業効果	運営の実施状況	(1)休館日及び開館時間	ニーズを踏まえ臨時開館や開館延長を行っている。	×1		○
			(2)都及び関係機関との連携・協力	都や他の美術館等との連携・協力体制を維持・発展させる。	×2		◎
			(3)地域連携	地域と連携した事業展開・広報活動を行っている。	×2		○
			(4)施設及び附帯設備の貸出	公募展示室使用割当時稼働率 100%及びその他貸出施設等についても有効活用に取り組む。	×1		○
			(5)広報、プロモーション	HPやSNSをはじめとする様々な媒体での魅力発信に努める。	×2		○
	事業効果	施設サービスの実施状況	(1)多様な利用者に配慮した施設設備	施設設備面におけるバリアフリー化を推進している。	×2		○
			(2)案内・表示	館内サイン等について、多言語対応、バリアフリー化を積極的に進めている。	×1		○
			(3)館内サービス (基本的サービス、飲食・物販施設)	商品の充実等を図り、魅力的な飲食・物販施設等の運営を行っている。	×1		○
			(4)館内ホスピタリティ、苦情対応	委託業者等とも綿密に連絡を取り、ホスピタリティの向上に努める。	×1		○
			(5)顧客満足度指標	総合満足度の割合	×1		◎
(6)その他 (利用促進に向けた新たな取組)			利用者アンケート等により顧客ニーズを把握し、サービス向上に努める。	×1	○		
総合	方針と目標の達成状況	基本方針と達成目標	・各定性・定量目標を着実に達成している。 ・事業計画に基づく、適切かつ継続的な事業運営が行われている。 ・多彩な事業がバランスよく実施されている。	×2	○	○関係各機関と連携し、質の高い展示・研究を着実に実施するとともに、アート・コミュニケーション事業では多彩なプログラムを展開し、社会包摂を意識した事業にも積極的に取り組むなど、美術の振興と発展に貢献している。	

【一次評価結果】

得点	一次評価結果
56	A

標準点	評価基準	S	58点以上
43点		A	54~57点
		B	38~53点
		C	37点以下

指定管理者の財務状況
財務状況には課題がなく、健全化に向けた取組が行われている。

特命要件の継続		
特命要件	有	無
運営にあたって、都政と連携し、時代の要請に柔軟かつ迅速に対応する。	○	
幅広い分野における資料・作品の収集、保存・管理や調査研究を行うとともに、魅力的で創造性豊かな事業や展覧会を実施する等、専門性・学術性が極めて高い。	○	
各施設の取り扱う幅広い分野の専門人材、ノウハウ、他機関とのネットワークを豊富に有する。	○	

※評価水準欄に記載された事項を中心としつつ、確認項目毎に実施内容を総合的に評価する。

特記事項	
要改善事項等	

令和4年度 東京都江戸東京博物館外6施設指定管理者管理運営状況評価(一次評価)

施設名: 東京都庭園美術館

※評価: ◎水準を上回る(2点) ○水準どおり(1点) △水準を下回る(0点)

		確認項目	評価水準	配点	評価	評価理由	
管理状況	管理の実施状況	(1)施設設備の管理 (施設の維持補修・修繕)	適切な保守点検・修繕を行い、来館者の安全確保に努めている。 重要文化財としての旧朝香宮邸本館・茶室や庭園の維持保全のため、適切な管理に努めている。	×2	◎	◎重要文化財である本館、茶室、庭園等を適正に維持管理し、良好な状態を保っている。 高圧ケーブル引換工事を実施し、ケーブルの仮設状態を解消した。また、樹木診断、剪定を行い、館内の環境整備と安全性の確保を促進した。 ○災害弱者避難誘導マニュアルを作成し、自衛消防訓練において実践練習を実施し、あらゆる人々に開かれた美術館として災害に備えている。 ○感染症対策を継続しつつ、各種ガイドラインの改定や感染状況の変化に対応し、事業活動の幅を広げた。展覧会だけでなく、庭園・茶室を活用した事業、映像コンテンツの積極的な配信、地域連携・共生社会の実現に向けた事業等、限られた職員数で効率的に実施した。	
		(2)危機管理 (防災・防犯への配慮、事故対応)	事故発生時、適切な対応を行い、速やかに都へ報告を行っている。	×2	○		
		(3)組織体制 (人員配置、人材育成の取組)	限られた職員数で館の効率的な運営を図っている。	×1	○		
		(4)各種法令等の遵守、個人情報保護・情報公開の取組	個人情報紛失・漏洩等事故の未然防止に努め、情報セキュリティポリシーその他法令等を遵守する。	×1	○		
		(5)業務の品質管理と自己評価	外部評価委員会の開催等を通し、外部の意見を積極的に取り入れている。	×1	○		
管理状況	財務の状況	(1)施設の収支状況	限られた予算を効率的に執行し、収入を確実に確保する。	×2	○	○自主事業において予算を超える収益を上げられた。 ○年間協賛金を継続2社と新規1社の計3社確保した。新規1社とは協賛に係る複数年協定を締結し、安定的な外部資金を獲得できた。 ○物品等の管理は適切に行っている。	
		(2)外部資金等の活用	助成金・協賛金等を通じた外部資金獲得に積極的に取り組む。	×1	○		
		(3)所有財産等(物品・現金等)の管理	必要に応じ都へ報告を行い、適切に物品等を管理している。	×1	○		
事業効果	事業の実施状況	(1)資料の管理 (収集、分類整理、記録、保管)	東京都の「収集の基本方針」に基づき、質の高い作品を収集し、適正な環境で保管する。	×2	○	○方針に沿った資料を収集し、また、朝香宮旧蔵の家具3点の状態調査及び修復を行い、建物公開事業を始めとした事業の充実を図っている。 ○収蔵資料データベースシステムの本格導入及び収蔵資料の撮影を行い、所蔵資料の情報をさらに広く公開する準備を進めた。また、建物公開展の会場をデジタルアーカイブ化し、ホームページでオンライン配信することで、会期終了後も継続して鑑賞できる環境を提供している。 ○必要の発行及びウェブ公開を行い、研究成果を広く速やかに発信している。 ◎建物公開展では、来場者の満足度91%を獲得し、文化財の価値の理解につながる鑑賞機会を提供した。また、庭園公開においては、ガーデンコンサートやガーデンツアー、親子を対象とした「こども茶会」など積極的に事業を行い、茶室や芝庭の活用の幅を広げた。 △建物公開展の入場者数目標はわずかに達成とならなかった。(実績32,297人、達成率89.7%) ◎各企画展は、館の空間特性を活かしたバリエーション豊かな独自の展示を展開しており、来場者の満足度も高く、館の新たな魅力を発信できている。 ◎企画展の入場者数は、目標を上回った。(実績119,240人、達成率117.4%) ○子育て世代のためのベビーツアーに加え、休館日にベビーデーを初めて実施し多数の親子の参加があった。また、「やさしい日本語」を用いたダイバーシティプログラムでは、初めて小学生を対象として実施し、社会包摂・社会課題の解決に取り組んだ。 ◎正門横ショップを再整備して展示機能を持たせ、小展示を開催し、新たな鑑賞体験の提供による館の魅力発信に努めた。	
		(2)資料の活用 (貸出・借受外、資料情報システム、収蔵品の公開等)	作品貸与やデジタル・アーカイブに積極的に取り組み、収蔵作品の効果的な活用を図る。	×2	○		
		(3)調査・研究	国際的な視点を踏まえた調査研究を行い、その成果を紀要やシンポジウム等で都民に還元する。	×2	○		
		(4)建物・庭園公開事業の内容	旧朝香宮邸や庭園の調査研究に基づき、その文化財としての価値を様々な観点から紹介する建物公開展を実施する。	×2	◎		
		(5)建物・庭園公開事業の入場者数	入場者数36,000人以上。	×1	△		
		(6)企画展の内容	館の基本方針を踏まえ、空間特性を活かしながら、国内外の装飾芸術を魅力的に紹介する。	×2	◎		
		(7)企画展の入場者数	入場者数101,500人以上。	×1	◎		
		(8)教育普及事業	子供、青少年、障害者や高齢者、子育て世代、外国人等あらゆる人々が参加できるワークショップや各種イベント等の開催を通じ、社会的課題の解決に取り組むとともに、多くの人に文化財の価値や意義を伝える。	×2	○		
		(9)その他の事業	ファン層の拡大に向け、パスポートの戦略的な運営を図る。	×1	◎		
	事業効果	運営の実施状況	(1)休館日及び開館時間	ニーズを踏まえ臨時開館や開館延長を行っている。	×1	○	○夜間開館は新型コロナウイルスの影響のため一部日程が中止となったことから、入場者数目標には届かなかったが、可能な限り鑑賞機会を充実させた。 ○東京芸術劇場所属アーティストによる演奏を庭園で実施し、庭園の文化財的価値を発信するとともに、関連施設間の協力体制を発展させた。 ◎茶室を活用した新規事業「光華倶楽部」では、区内の大使館と高校が茶会を通じて文化交流を図る場を提供し、地域の連携を強化した。 ◎ユニークベニュー事業では、利用者との丁寧な調整が実を結び3件の実施に至った。施設写真の商用貸出、ロケ撮影は概ね目標を達成し、館のイメージアップに寄与した。 ○各SNSへの投稿を目標回数の約2倍行い、写真だけでなく動画、インスタライブ配信等、積極的な発信を行った。フォローワー数も伸び続けており、館の魅力を効果的に発信している。
			(2)都及び関係機関との連携・協力	都や他の美術館等との連携・協力体制を維持・発展させる。	×2	○	
			(3)地域連携	地域と連携した事業展開・広報活動を行っている。	×2	◎	
			(4)施設及び附帯設備の貸出	幅広い用途に貸出しを図るとともに、リピーターを増やすことで、稼働率向上を図る。	×1	◎	
			(5)広報、プロモーション	HPやSNSをはじめとする様々な媒体での魅力発信に努める。	×2	○	
			事業効果	施設サービスの実施状況	(1)多様な利用者に配慮した施設設備	施設設備面におけるバリアフリー化を推進している。	
(2)案内・表示	館内サイン等について、多言語対応、バリアフリー化を積極的に進めている。	×1			○		
(3)館内サービス (基本的サービス、飲食・物販施設)	商品の充実等を図り、魅力的な飲食・物販施設等の運営を行っている。	×1			○		
(4)館内ホスピタリティ、苦情対応	委託業者等とも綿密に連絡を取り、ホスピタリティの向上に努める。	×1			○		
(5)顧客満足度指標	総合満足度の割合	×1			◎		
(6)その他 (利用促進に向けた新たな取組)	利用者アンケート等により顧客ニーズを把握し、サービス向上に努める。	×1			○		
総合	方針と目標の達成状況	基本方針と達成目標	・各定性・定量目標を着実に達成している。 ・事業計画に基づく、適切かつ継続的な事業運営が行われている。 ・多彩な事業がバランスよく実施されている。	×2	○	○展覧会の観覧者数及び庭園のみ入場者数は目標値を上回り、貴重な文化財の価値を発信している。感染症対策に引き続き取り組みつつ、地域連携事業やクリエイティブ・ウェル事業における新規企画を実施し事業の幅を広げ、多様な鑑賞者に来館機会を提供するなど、あらゆる鑑賞者に開かれた美術館の実現を図っている。	

【一次評価結果】

得点	一次評価結果
54点	A

標準点	評価基準	S	58点以上
43点		A	54～57点
		B	38～53点
		C	37点以下

指定管理者の財務状況
財務状況には課題がなく、健全化に向けた取組が行われている。

特命要件の継続		
特命要件	有	無
運営にあたって、都政と連動し、時代の要請に柔軟かつ迅速に対応する。	○	
幅広い分野における資料・作品の収集、保存・管理や調査研究を行うとともに、魅力的で創造性豊かな事業や展覧会を実施する等、専門性・学術性が極めて高い。	○	
各施設の取り扱う幅広い分野の専門人材、ノウハウ、他機関とのネットワークを豊富に有する。	○	

特記事項	
要改善事項等	

※評価水準欄に記載された事項を中心としつつ、確認項目毎に実施内容を総合的に評価する。

令和4年度 東京都江戸東京博物館外6施設指定管理者管理運営状況評価(一次評価)

施設名: 東京文化会館

※評価: ◎水準を上回る(2点) ○水準どおり(1点) △水準を下回る(0点)

		確認項目	評価水準	配点	評価	評価理由	
管理状況	管理の実施状況	(1)施設設備の管理 (施設の維持補修・修繕)	適切な保守点検・修繕等を行い、来館者の安全確保に努めている。	×2	○	○定期点検の報告に基づく迅速な設備の修繕を実施し、来場者の安全を確保している。雨漏りに対して雨水導水工事を行い、施設への影響を軽減した。 ◎業界ガイドライン改訂に応じた感染症対策を継続的に実施した。新たに楽屋・会議室エリアの抗菌加工を実施したほか、医療機関と連携して医療用抗原検査キットを導入・活用することにより、感染拡大を未然に防止し、主催事業の円滑な運営に繋がった。また、会議室受付をメインエントランス総合受付に統合し、セキュリティを強化した。 ○情報セキュリティ研修を実施し、個人情報の紛失・漏洩等の事故防止を図っている。また、参考事例を職員に共有し、事故発生時の対応を周知することで、危機意識を向上させている。	
		(2)危機管理 (防災・防犯への配慮、事故対応)	事故発生時、適切な対応を行い、速やかに都へ報告を行っている。	×2	◎		
		(3)組織体制 (人員配置、人材育成の取組)	限られた職員数で館の効率的な運営を図っている。	×1	○		
		(4)各種法令等の遵守、個人情報保護・情報公開の取組	個人情報紛失・漏洩等事故の未然防止に努め、情報セキュリティポリシーその他法令等を遵守する。	×1	○		
		(5)業務の品質管理と自己評価	外部評価委員会の開催等を通し、外部の意見を積極的に取り入れている。	×1	○		
管理状況	財務の状況	(1)施設の収支状況	限られた予算を効率的に執行し、収入を確実に確保する。	×2	○	○平成30年度に採択された文化庁の助成金(機能強化総合支援事業)のほか、「コロナ禍からの再興支援」に申請し、積極的に外部資金を獲得した。また、民間からの助成金及び協賛金も着実に獲得した。	
		(2)外部資金等の活用	助成金・協賛金等の外部資金獲得に積極的に取組む。	×1	○		
		(3)都有財産等(物品・現金等)の管理	必要に応じ都へ報告を行い、適切に物品等を管理している。	×1	○		
事業効果	事業の実施状況	(1)施設の貸出 (大ホール、小ホール)	大ホール稼働率 88%以上、小ホール稼働率 78%以上。	×2	○	○大ホールの稼働率が86.2%、小ホールの稼働率が84.9%で、目標を上回った。 ○室内オペラ「note to a friend」は、東京音楽コンクール入賞者を起用し人材育成事業とも連携しつつ、国際的な創造事業としてニューヨークで制作・初演を行い、館での公演では入場者目標に対し99%を達成した。 ◎東京音楽コンクールは、国内外から応募があり、応募者数が増加傾向であるなど、コンクールの魅力が着実に高まっている。また、才能を持つ若手音楽家を発掘するだけでなく、各事業へ東京音楽コンクール入賞者等を積極的に起用し、その後の活躍に繋げる重要な役目を果たしている。 ◎シアターデビュープログラムでは、学校へアウトリーチを行うとともに、対象年齢の招待枠を設け、文化啓蒙・教育活動に取り組んだ。オンライン・プログラムの制作件数は、R3年度に比較して半減した一方、国際連携企画「ワークショップ・フェスタ」では参加者達成率286%となった。また、コンビビアル・プロジェクトとして障害や年齢、社会的背景に関わらず参加できるプログラムの実施など、社会包摂・社会課題の解決に向けた取組を行っている。 ◎R3年度から3つの会員制度が統合されて始まった新制度「東京文化会館メンバーズ」の新たな登録者が着実に増加している。	
		(2)施設の貸出 (リハーサル室、会議室等)	会議室等について積極的な貸出を行う。	×1	○		
		(3)芸術文化の振興に関する事業 (創造・発信)	質の高い創造を行い、全国への幅広い成果の波及を図るとともに、オンラインプログラムの製作・配信など、最先端技術の活用にも取り組む。	×2	○		
		(4)芸術文化の振興に関する事業 (育成・支援)	才能を持つ新進・若手音楽家を発掘、起用し育成を図る。	×2	◎		
		(5)芸術文化の振興に関する事業 (次世代への投資・社会的課題の解決)	子供や高齢者、障害者などに向けたワークショップ・アウトリーチ活動を積極的にを行い、音楽文化の継承を図るとともに、社会的課題解決に取り組む。	×2	◎		
		(6)音楽資料室の運営	利用実態等を踏まえた運営を行い、顧客満足度を向上させる。	×1	○		
		(7)その他の事業	「東京文化会館メンバーズ」の運営等、その他の事業についても適切に実施している。	×1	◎		
	事業効果	運営の実施状況	(1)休館日及び開館時間	ニーズを踏まえ臨時開館や開館延長を行っている。	×1		○
			(2)都及び関係機関との連携・協力	都や他のホール・劇場等との連携・協力体制を維持・発展させる。	×2		○
			(3)地域連携	地域と連携した事業展開・広報活動を行っている。	×2		○
			(4)広報、プロモーション	HPやSNSをはじめとする様々な媒体での魅力発信に努める。	×2		◎
	事業効果	施設サービスの実施状況	(1)多様な利用者に配慮した施設設備	施設設備面におけるバリアフリー化を推進している。	×2		○
			(2)案内・表示	館内サイン等について、多言語対応、バリアフリー化を積極的に進めている。	×1		○
			(3)館内サービス (基本的サービス、飲食・物販施設)	商品の充実等を図り、魅力的な飲食・物販施設等の運営を行っている。	×1		○
			(4)館内ホスピタリティ、苦情対応	委託業者等とも綿密に連絡を取り、ホスピタリティの向上に努める。	×1		○
			(5)顧客満足度指標	総合満足度の割合	×1		◎
			(6)その他 (利用促進に向けた新たな取組)	利用者アンケート等により顧客ニーズを把握し、サービス向上に努める。	×1		○
総合	方針と目標の達成状況	基本方針と達成目標	・各定性・定量目標を着実に達成している。 ・事業計画に基づく、適切かつ継続的な事業運営が行われている。 ・多彩な事業がバランスよく実施されている。	×2	○	○「音楽・舞台芸術の殿堂」にふさわしい良質な公演の鑑賞機会を確保すると同時に、次世代への音楽文化の継承と教育普及、社会包摂・社会課題の解決といった今後より一層重視される課題にも、生の公演の実施とともに、引き続きオンラインツールも活用して取り組んでいる。新型コロナウイルス感染症対策の各種ガイドライン改訂に対応し対策を適宜見直しつつ、諸制限の緩和に伴い一部サービスを再開するなど、利用者の利便性の向上に取り組んだ。	

【一次評価結果】

得点	一次評価結果
48点	A

標準点	評価基準	S	51点以上
		38点	A
B			34～47点
C			33点以下

指定管理者の財務状況

財務状況には課題がなく、健全化に向けた取組が行われている。

特命要件の継続

特命要件	有	無
運営にあたって、都政と連動し、時代の要請に柔軟かつ迅速に対応する。	○	
幅広い分野における資料・作品の収集、保存・管理や調査研究を行うとともに、魅力的で創造性豊かな事業や展覧会を実施する等、専門性・学術性が極めて高い。	○	
各施設の取り扱う幅広い分野の専門人材、ノウハウ、他機関とのネットワークを豊富に有する。	○	

※評価水準欄に記載された事項を中心としつつ、確認項目毎に実施内容を総合的に評価する。

特記事項	
要改善事項等	

令和4年度 東京都江戸東京博物館外6施設指定管理者管理運営状況評価(一次評価)

施設名: 東京芸術劇場

※評価:◎水準を上回る(2点) ○水準どおり(1点) △水準を下回る(0点)

		確認項目	評価水準	配点	評価	評価理由		
管理状況	管理の実施状況	(1)施設設備の管理 (施設の維持補修・修繕)	適切な保守点検・修繕等を行い、来館者の安全確保に努めている。	×2	○	○自衛消防訓練や豊島区等関係機関と連携した訓練を着実に実施したほか、舞台設備について計画に基づいた改修を適切に行っている。 ○委託業者等を含め、情報共有や意見交換を積極的に行い、連携を密にすることで、館の効率的な運営につなげるとともに、劇場や創作の現場に特化し、近年の具体的な事例などを取り入れたハラスメント講習会を開催し、コンプライアンス向上に取り組んだ。 ○各種法令を遵守し、個人情報等を適切に管理している。		
		(2)危機管理 (防災・防犯への配慮、事故対応)	事故発生時、適切な対応を行い、速やかに都へ報告を行っている。	×2	○			
		(3)組織体制 (人員配置、人材育成の取組)	限られた職員数で館の効率的な運営を図っている。	×1	○			
		(4)各種法令等の遵守、個人情報保護・情報公開の取組	個人情報紛失・漏洩等事故の未然防止に努め、情報セキュリティポリシーその他法令等を遵守する。	×1	○			
		(5)業務の品質管理と自己評価	外部評価委員会の開催等を通し、外部の意見を積極的に取り入れている。	×1	○			
	財務の状況	(1)施設の収支状況	限られた予算を効率的に執行し、収入を確実に確保する。	×2	○	○コロナや物価高騰の影響により収支に影響があったが、外部資金の獲得やチケット収入増への取組に尽力した。 ○物品は適切な管理が行われている。		
		(2)外部資金等の活用	助成金・協賛金等の外部資金獲得に積極的に取り組んでいる。	×1	○			
		(3)都有財産等(物品・現金等)の管理	必要に応じ都へ報告を行い、適切に物品等を管理している。	×1	○			
		(4)施設の貸出 (大ホール、中ホール、小ホール)	稼働率について、大ホール 52%以上、中ホール 73%以上、小ホール1 80%以上、小ホール2 78%以上。	×2	◎			
		(5)施設の貸出 (展示室、リハーサル室、会議室)	展示室やリハーサル室等について積極的な貸出を行う。	×1	○			
事業効果	事業の実施状況	(3)芸術文化の振興に関する事業 (音楽)	質の高い事業を発信しつつ、地方館との連携強化や国際的な事業展開を行うとともに、オンラインプログラムの製作など、最先端技術の活用にも取り組んでいる。	×2	○	◎大ホール83.9%、中ホール96.3%、小ホール1 95.9%、小ホール2 95.6%と高い稼働率となっている。 ○「シアターオペラ」では、歌手とダンサーが一つの役を演じる創造的オペラを制作し、各媒体で取り上げられるなど話題を呼んだ。また、ロンドン交響楽団のコンサートを行ったほか、「ボンクリ・フェス」で海外アーティストを招聘し、館内各所を使った幅広いジャンルの音楽を提供。パリ管弦楽団の公演においてはアカデミー生の見学も実施し人材育成を行うなど、質の高い事業を発信した。 ◎《生き残った子孫たちへ 戦争六篇》は読売演劇大賞・最優秀作品賞を受賞、《Q:A Night at the Kabuki》はNODA MAPとの連携により海外公演と国内公演を一体的にプロデュースし、ロンドンでは12媒体で劇評が出るほか、地元有力紙で4つ星の評価を得るなど、大きな成果を得た。 ◎演劇人育成事業である東京演劇道場ではメンバーの半数以上がプロデュース公演に出演するほか、道場生による公演も実施した。制作者育成事業であるアーツ・アカデミーでは卒業生の8割ほどが舞台に関わるプロとして活動するなど、次代の舞台芸術を担う人材の育成事業に積極的に取り組んでいる。 ◎東京のはら表現部やホワイトハンドコーラス、社会共生セミナーの実施など、様々な社会包摂プログラムに取り組んでいる。また、バックステージツアーや劇場ツアーを積極的に行い、参加者は目標の173(938)人、満足度も98%~100%と高く、舞台芸術の関心を高め、劇場を身近に感じられる企画も行っている。		
		(4)芸術文化の振興に関する事業 (舞台芸術)	質の高い事業を発信しつつ、地方館との連携強化や国際的な事業展開を行うとともに、オンラインプログラムの製作など、最先端技術の活用にも取り組んでいる。	×2	◎			
		(5)芸術文化の振興に関する事業 (育成・支援)	次代の舞台芸術を担う人材の育成事業を積極的に企画・実施している。	×1	◎			
		(6)芸術文化の振興に関する事業 (次世代への投資・社会的課題の解決)	子供、高齢者、障害者等多様な主体を対象に、劇場を身近に感じてもらえるような教育普及プログラムを企画・実施し、次世代に舞台芸術を継承するとともに、社会的課題の解決に取り組む。	×1	◎			
		(7)芸術文化の振興に関する事業 (劇場の賑わい創造事業ほか)	多様な人々がともに参加できる、楽しく賑わいのある空間を創出する。	×1	○			
		(8)パイプオルガンの保守・管理及び活用	パイプオルガンを活用し、オルガン音楽の魅力を普及させる。	×1	○			
		(9)その他の事業	水天宮ピットの運営等、その他の事業についても適切に実施している。	×1	○			
		運営の実施状況	(1)休館日及び開館時間	ニーズを踏まえ臨時開館や開館延長を行っている。	×1		○	◎フィルハーモニー・ド・パリと海外劇場間提携事業協定を締結したほか、アジア主要4都市連携による若手育成事業「アジア・コネクション・プロデューサーズ・クリエイション」を通じて、国際協働制作のネットワークを構築した。 ○豊島区と立教大学による共同事業「豊島こども大学」への協力のほか、GLOBAL RING音楽祭の実行委員会のメンバーとして、積極的に地域との連携を実施した。 ◎コロナの影響による公演中止の間にもSNS発信を絶え間なく行い、ツイッターフォロワー数が首都圏の公共劇場の中でもトップクラスの10万人を達成した。また、音楽家育成事業の芸劇オーケストラ・アカデミー・フォア・ウィンドで新たにインスタグラムを立ち上げ、成果を紹介するなど、広報展開も充実させた。
			(2)都及び関係機関との連携・協力	都や他のホール・劇場等との連携・協力体制を維持・発展させる。	×2		◎	
	(3)地域連携		地域と連携した事業展開・広報活動を行っている。	×2	○			
	(4)広報、プロモーション		HPやSNSをはじめとする様々な媒体での魅力発信に努める。	×2	◎			
	施設サービスの実施状況		(1)多様な利用者に配慮した施設設備	施設設備面におけるバリアフリー化を推進している。	×2	○		
		(2)案内・表示	館内サイン等について、多言語対応、バリアフリー化を積極的に進めている。	×1	○			
		(3)館内サービス (基本的サービス、飲食・物販施設)	商品の充実等を図り、魅力的な飲食・物販施設等の運営を行っている。	×1	○			
		(4)館内ホスピタリティ、苦情対応	委託業者等とも綿密に連絡を取り、ホスピタリティの向上に努める。	×1	○			
		(5)顧客満足度指標	総合満足度の割合	×1	◎			
		(6)その他 (利用促進に向けた新たな取組)	利用者アンケート等により顧客ニーズを把握し、サービス向上に努める。	×1	○			
	総合	方針と目標の達成状況	基本方針と達成目標	・各定性・定量目標を着実に達成している。 ・事業計画に基づく、適切かつ継続的な事業運営が行われている。 ・多彩な事業がバランスよく実施されている。	×2	○	○芸術文化の創造発信拠点としての役割を果たすため、音楽・舞台芸術ともに質の高い作品を発信している。また社会共生や人材育成など、各種の社会的課題の解決に向けた事業も積極的に推進している。	

【一次評価結果】

得点	一次評価結果
50	A

標準点	評価基準	S	52点以上
39点		A	49~51点
		B	35~48点
		C	34点以下

指定管理者の財務状況
財務状況には課題があるが、健全化に向けた対策を検討している。

特命要件の継続		
特命要件	有	無
運営にあたって、都政と連動し、時代の要請に柔軟かつ迅速に対応する。	○	
幅広い分野における資料・作品の収集、保存・管理や調査研究を行うとともに、魅力的で創造性豊かな事業や展覧会を実施する等、専門性・学術性が極めて高い。	○	
各施設の取り扱う幅広い分野の専門人材、ノウハウ、他機関とのネットワークを豊富に有する。	○	

特記事項	
要改善事項等	

※評価水準欄に記載された事項を中心としつつ、確認項目毎に実施内容を総合的に評価する。

1. 東京体育館

【一次評価結果】

合計点	一次評価結果
30点	B

標準点 ※1	評価基準 ※2	S	46点以上
34点		A	43点～45点
		B	30点～42点
		C	29点以下

※1 標準点は、評価項目が全て中位の評価を受けた場合の得点。

※2 「S」は標準点の1.33倍以上の場合、
「A」は標準点の1.25倍以上かつ1.33倍未満の場合、
「B」は標準点の0.88倍より大きくかつ1.25倍未満の場合、
「C」は標準点の0.88倍以下の場合。

【確認事項】

指定管理者の財務状況について
代表団体においては、借入金が存在せず、取り崩せる財源余力はあるが、公的機関であるにもかかわらず6期連続正味財産増減額が赤字となっていることには留意する必要がある。なお、構成団体は㈱オーエンスについては問題は見られない。(株)ティップネスについては4期連続赤字であり回復のスピードも遅い。

特命要件の継続状況
東京2020大会の開催にあたり、準備から大会終了後の運営再開まで都立施設として適切な役割を果たした。なお、次期選定は公募にて実施。

管理状況	適切な管理の履行	配点	評価	評価の内容
	協定や事業計画に沿って、施設の安全性を確保しつつ、適切に管理が行われているか			
	(1) 施設・設備の適切な管理（安全性の確保）	×2	△	(1) 一部作業で標準仕様書、特記仕様書に定められた回数と実際の実施回数に過不足が見られた。外部専門業者に委託している点検について、報告書に作業写真の添付がないものが散見された。各修理修繕について、実施月の記載のみで実施日及び不具合発生日の記載がなく、また、年間の業務実施状況が実際に作業を実施した月と不一致の作業が確認された。(5) 優先受付においては世界新体操選手権・国際柔道大会等の国際大会の他、全日本体操総合選手権・全国高校バスケット選手権・春高バレー・全日本卓球総合選手権などの知名度が高く、施設を有効的に活用できる大型大会等を引き続き誘致した。また、2007年ぶりの開催となるフィギュアスケートの国際大会を誘致した他、車いすラグビー国際大会、視覚障害者国際柔道大会、パラ卓球国際大会などの大規模パラスポーツ大会等も主催者との相談を経て、誘致・調整を行った。
	(2) 施設の清掃（清潔さ）	×1	○	
	(3) 施設の警備	×1	○	
	(4) 人員配置及び人材育成の取組	×1	○	
	(5) 施設の提供について	×1	○	
	法令等の遵守	配点	評価	評価の内容
	個人情報保護、報告等は適切に行われているか			
	(1) 個人情報保護・情報セキュリティ	×1	△	(1) 令和5年2月20日 サイバーセキュリティインシデントが発生。
(2) 情報公開の取組	×1	○	(4) 10月5日にティップネスのアルバイトスタッフが利用者のスマホを窃取。当該スタッフは10月17日に自主退職し、10月19日に利用者との示談が成立した。ティップネス社とスポーツ文化事業団は都へ報告を行いつつ対応を検討し、本件不祥事の報告とお詫びの文章を事業団HPに掲載した(10月26日)。	
(3) 環境配慮への取組	×1	○		
(4) 各種法令等の遵守	×1	△		
緊急時の対応	配点	評価	評価の内容	
災害や事故への備えが適切に行われているか				
(1) 都への報告・連絡	×1	○	(1) 疾病・事故発生時の対応マニュアル、緊急対応要項に基づき、対応をしている。土日もカバーをしている。	
(2) 防災への配慮・緊急時対策	×1	○	(3) 該当案件が発生した際は、救急対応カード・事故報告書等に取り纏め、必要に応じて他管理施設を含めて情報の共有を行う体制を整備している。	
(3) 事故への対応	×1	○		
適切な財務運営・財産管理	配点	評価	評価の内容	
適切な財務運営・財産管理が行われているか				
(1) 収支状況（安定的な運営）	×2	○	(1) 事業計画に基づき順調に執行しており、計画収支との大きな相違はない。	
(2) 経理処理	×1	○	(3) 物品管理一覧表と現物及び管理番号の照合点検を適切に実施し、東京都への報告を行っている。また、各施設や諸室に整備された備品等については、リスト化し、各月の休館日に個数確認や不具合確認、不足確認等を実施している。	
(3) 物品の管理	×1	○		

事業効果	利用状況	配点	評価	評価の内容
	利用促進効果			
	(1) 利用状況	×2	○	(1) 通常営業していた平成29年度(677,725人)と比較すると、約45%の利用者数である。新型コロナウイルスによるキャンセルが多かったのが課題であったが、それに対して、キャンセルのあったコマに営業活動し、また、割引制度を最大限活用した。
	事業の取組	配点	評価	評価の内容
	事業計画通りのサービスが提供されているか			
	(1) スポーツ振興事業又は障害者スポーツ振興事業等の実施状況	×2	○	
	(2) 自主事業の実施状況	×2	○	(4) 利用者懇談会においては例年3月に実施し、次年度に向けた変更事項の伝達やご意見・ご要望を伺っているが、東京2020大会や改修工事による休館、新型コロナウイルスの感染状況により、昨年度まで実施を見送ってきた。今年度においては、3月に開催することを利用団体へ案内しており、実施の際には、過去と同様に団体の意見・要望等をまとめた報告書を作成し、記録を行う。
	(3) 利用者に対するサービス提供事業の実施状況	×2	○	(5) 準備・撤去など行事開催に伴う利用時間の繰上・延長等の利用者ニーズに対し、弾力的な対応を実施している。また、個人使用施設は、平日は23時・土曜は22時までと利用時間を延長し、より多くの都民が利用できる取組をしている。
	(4) 利用者ニーズの把握	×2	○	(8) 国立競技場と連結した歩行者デッキが整備されたことにより、国立競技場との大規模行事重複開催時の来場者動線や警備・誘導員などの調整を行うとともに、神宮外苑地区における近隣施設(国立競技場・神宮球場・神宮外苑・青年館ホテルなど)との連絡調整会議を定期的に実施し、一層の施設運営におけるサービス向上を図るため、課題点や今後の予定の共有を行っている。
	(5) サービス向上に向けた取組	×2	○	
(6) 苦情等への対応	×1	○		
(7) 利用促進への取組	×2	○		
(8) 都の施策への協力等	×2	○		

※評価： ◎水準を上回る（2点） ○水準どおり（1点） △水準を下回る（0点）

2. 駒沢オリンピック公園総合運動場

管理状況	適切な管理の履行		配点	評価	評価の内容
	協定や事業計画に沿って、施設の安全性を確保しつつ、適切に管理が行われているか				
	(1) 施設・設備の適切な管理（安全性の確保）	×2	△	(1)「安全点検パトロール」を定期的(月1回)及び随時的に実施し、危険箇所の発見や各施設の補修箇所等を検討することで、安全な施設維持管理に取り組んでいる。定期点検を行っている専門業者と連携を密にとり、不具合の早期発見と予防安全を行っているものの、修繕記録が残っていないところがあった。 (4) 現金・預金の取扱等、複数人で行うべき業務を1名体制で実施するなど、人員配置に不適切な点があった。	
	(2) 施設の清掃（清潔さ）	×1	○		
	(3) 施設の警備	×1	○		
	(4) 人員配置及び人材育成の取組	×1	△		
	(5) 施設の提供について	×1	○		
	法令等の遵守		配点	評価	評価の内容
	個人情報保護、報告等は適切に行われているか				
	(1) 個人情報保護・情報セキュリティ	×1	○	(1)年1回全職員を対象に研修及びテストを実施している。また、他館で発生した個人情報漏洩事故に際し、全職員を対象に研修及びテストを実施するなど個人情報保護に対する所内の見識を高める試みを適宜行っている。 (3) 太陽光発電を体育館・屋内球技場・硬式野球場で行っている。特に体育館では指定管理者独自に太陽光パネルを設置している。 屋内球技場の屋上緑化散水に雨水を利用し、節水を行っている。ゼロエミッションに向けた取組として電気自動車の作業車両を使用している。	
(2) 情報公開の取組	×1	○			
(3) 環境配慮への取組	×1	○			
(4) 各種法令等の遵守	×1	○			
緊急時の対応		配点	評価	評価の内容	
災害や事故への備えが適切に行われているか					
(1) 都への報告・連絡	×1	○	(1)都を含めた緊急連絡体制を構築し平日の日中以外でも不測の事態に対応できるように連絡体制を整えている。 (2)令和4年度消防計画に則り、防災訓練及び消防設備点検(機器点検・総合点検)を年2回実施している。 第2回防災訓練(デフ大会想定)に先立ち、東京都聴覚障害者連盟による聴覚障害者対応研修を実施した。 事業「AED普及啓発講習」に一般の人と共に職員が参加した(令和4年度は参加者24名中8名が職員)。		
(2) 防災への配慮・緊急時対策	×1	○			
(3) 事故への対応	×1	○			
適切な財務運営・財産管理		配点	評価	評価の内容	
適切な財務運営・財産管理が行われているか					
(1) 収支状況（安定的な運営）	×2	△	(1) 収入の正確な把握に必要な管理表の作成を省略するなど、適切な財務状況の保持に必要な業務を怠っていた。 (2) 通帳の記帳内容と伝票等の照合が行われていなかった。		
(2) 経理処理	×1	△			
(3) 物品の管理	×1	○			

事業効果	利用状況		配点	評価	評価の内容
	利用促進効果				
	(1) 利用状況	×2	○	(1) 令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響による休館や時短営業等がなく、また大会規模もコロナ禍前のものに戻ってきたため、個人利用・団体利用ともにコロナ禍前の状況に戻りつつある。	
	事業の取組		配点		評価
	事業計画通りのサービスが提供されているか				
	(1) スポーツ振興事業又は障害者スポーツ振興事業等の実施状況	×2	○	(2)施設活用自主事業は、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、計画した44事業中43事業を実施。 トレーニングルームのスタジオプログラムは、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、制限していた激しい運動を伴うプログラムの再開や利用者(参加者)人数制限の緩和等により、事業計画書に沿った実施に努めている。 (3)事業計画書に基づき、自動販売機の設置や駐車場2か所等を適正に管理運営している。 新専用駐車場(きりんさんパーキング)は個人利用者の平日割引等、引き続き割引を行い、利用者の拡大を図っている。 (5)新型コロナウイルス感染症の影響により、団体利用時の人数制限等感染拡大防止の対応を行いながら、キャンセルとなった枠に撮影等を積極的に受け付けた。提案書の内容に基づき、車いす対応トイレ、ベビーチェア(シート)・オストメイト対応トイレ等、多様な利用者への配慮が必要な施設について、ピクトグラムによる表示を行っている。 (8)「公園連絡調整」の担当者を設置し、毎朝の打ち合わせや公園管理者も含めた「連絡調整会議」を活用して、情報提供や共有を行い、利用者サービスの維持・向上に努めている。ソフトボールW杯やデフリンピックの開催に向けて都や競技団体の求めに応じた調整など様々な協力を臨機応変に行った。地元自治体の洪水時における避難所開設に向けた調整や地元自治会防災訓練への協力などの地域の防災対策に協力している。	
	(2) 自主事業の実施状況	×2	○		
	(3) 利用者に対するサービス提供事業の実施状況	×2	○		
	(4) 利用者ニーズの把握	×2	○		
	(5) サービス向上に向けた取組	×2	○		
(6) 苦情等への対応	×1	○			
(7) 利用促進への取組	×2	○			
(8) 都の施策への協力等	×2	○			

※評価： ◎水準を上回る（2点） ○水準どおり（1点） △水準を下回る（0点）

【一次評価結果】

合計点	一次評価結果
28点	C

標準点 ※1	評価基準 ※2	S	46点以上
34点		A	43点～45点
		B	30点～42点
		C	29点以下

※1 標準点は、評価項目が全て中位の評価を受けた場合の得点。

※2 「S」は標準点の1.33倍以上の場合、
「A」は標準点の1.25倍以上かつ1.33倍未満の場合、
「B」は標準点の0.88倍より大きくかつ1.25倍未満の場合、
「C」は標準点の0.88倍以下の場合。

【確認事項】

指定管理者の財務状況について
代表団体においては、借入金が存在せず、取り崩せる財源余力はあるが、公的機関であるにもかかわらず6期連続正味財産増減額が赤字となっていることには留意する必要がある。なお、構成団体は㈱オーエンスについては問題は見られない。(一社)東京都レクリエーション協会については黒字化しているが、基本財産は使い果たしているため、今後の経営環境に注視する必要がある。

3. 東京武道館

管理 状 況	適切な管理の履行 協定や事業計画に沿って、施設の安全性を確保しつつ、適切に管理が行われているか	配点	評価	評価の内容
	(1) 施設・設備の適切な管理（安全性の確保）	×2	◎	(1)点検結果報告等に、保守部品の入手可能時期を記載するなど工夫して、設備の不良個所の予防体制を整えている。日誌や点検結果報告等に記載されている耐用年数や不具合に関する情報に対して、対応や手配がされている。または、対応の必要性が記されており、不良個所の予防体制を整えている。東京都標準仕様書や機器メーカーなどが定めている点検項目に基づき、点検表を作成、一覧で確認できる文書管理リストを整備。点検報告書は設備ごとに分類され、見やすく管理している。
	(2) 施設の清掃（清潔さ）	×1	○	(5)優先受付では、東京都体育施設条例施行規則に基づき、世界的、全国的、全都的な大会を優先して調整している。調整の際には大会の公益性や規模などを考慮している。
	(3) 施設の警備	×1	○	
	(4) 人員配置及び人材育成の取組	×1	○	
	(5) 施設の提供について	×1	○	
	法令等の遵守 個人情報保護、報告等は適切に行われているか	配点	評価	評価の内容
	(1) 個人情報保護・情報セキュリティ	×1	○	(1)全職員に対して研修及びテストを実施。事業計画書記載のとおり、定期的実施される社内の個人情報保護研修を受講。年2回休館日には事例を踏まえた情報保護研修をアルバイトスタッフ対象に実施。
	(2) 情報公開の取組	×1	○	(3)令和4年10月、東京都から15%を目標に節電に取組むよう指示があり、これに対応すべく積極的に節電を実施。物品の買入れや業務の外部委託などにあたっては、東京都グリーン購入推進方針の遵守を納入業者や委託先へも徹底している。また、定期清掃における床洗浄やその他の製品においては環境配慮型洗剤を用いるなど環境負荷の低減に努めた物を使用している。
	(3) 環境配慮への取組	×1	◎	
(4) 各種法令等の遵守	×1	○		
緊急時の対応 災害や事故への備えが適切に行われているか	配点	評価	評価の内容	
(1) 都への報告・連絡	×1	○	(2)AEDを館内4か所に設置している。「避難口及びAEDの配置場所一覧」を利用団体との大会等打合せの際、配付している。消防訓練を年2回実施。訓練結果についてアンケートを取り、全職員で結果を共有している。事業団職員全員が「救命技能認定証（自動体外式除細動器業務従事者）」を所有（3年に1回の悉皆として受講している）。ティップネス及び東洋実業職員も受講している。	
(2) 防災への配慮・緊急時対策	×1	○		
(3) 事故への対応	×1	○		
適切な財務運営・財産管理 適切な財務運営・財産管理が行われているか	配点	評価	評価の内容	
(1) 収支状況（安定的な運営）	×2	◎	(1) 新型コロナウイルス感染症の影響で、計画と比べて大幅な収入減となっているが、適切な財務状況の維持に努めている。事業ごとの科目を設定した総理を行い、毎月、監査法人による確認を受けるなど、チェック体制を構築している。適正な予算管理及び執行管理（契約台帳、予算差引簿等の適正な管理及びチェック）を行っている。	
(2) 経理処理	×1	○	(3)保全物品整理簿により、年1回物品照合を実施している。	
(3) 物品の管理	×1	○		

事業 効果	利用状況 利用促進効果	配点	評価	評価の内容
	(1) 利用状況	×2	○	(1)令和3年度個人利用者数 45,705人、令和4年度個人利用者数 66,123人 トレーニングルームの個人利用者数が昨年度比で大幅に増加している。主要施設において、利用コマ数及び利用率が昨年度比で上昇している。
	事業の取組 事業計画通りのサービスが提供されているか	配点	評価	評価の内容
	(1) スポーツ振興事業又は障害者スポーツ振興事業等の実施状況	×2	○	(1)令和4年度は、コロナによる協力団体からの中止依頼のあった事業を除き、ほとんどの事業を予定通り実施することが出来た。館配置の武道師範及び各武道の高段者など、優れた指導者を招聘し、初心者から熟練者まで参加できる、様々な事業を展開している。
	(2) 自主事業の実施状況	×2	○	また、障害者スポーツ支援に係る講習会を実施し、スポーツの日記念事業の障害者スポーツ体験教室でボランティアとして活動してもらうなど、事業に運動性を持たせている。
	(3) 利用者に対するサービス提供事業の実施状況	×2	○	(2)青少年を対象に、頭脳スポーツといわれる将棋や囲碁の大会である「将棋スタジアム」や「ジュニア囲碁パーク」(第4四半期)開催について、例年より人数やコンテンツを制限し、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策を充分に行い、安全に実施した。
	(4) 利用者ニーズの把握	×2	○	(4)令和3年度アンケートの結果から、コロナ禍において観戦できない問題を解決するため、観戦に替わるものとして映像配信に利用できるWi-Fi設備の導入を決定する等、アンケート結果を分析し、必要な対応を検討している。
	(5) サービス向上に向けた取組	×2	○	(8)スポーツの日記念事業にて、都立東綾瀬公園との協働により、都立東綾瀬公園の魅力を発信するブース展開を行っている。来館者・来園者を増やすために、イベントの相互広報も行き、連携強化を図っている。大規模改修工事の基本計画策定に当たり、利用者の要望事項や施設運営上の改善事項を整理し、基本計画への反映に協力している。また、大型映像装置の試写対応などにも協力している。
	(6) 苦情等への対応	×1	○	
	(7) 利用促進への取組	×2	○	
(8) 都の施策への協力等	×2	○		

※評価： ◎水準を上回る（2点） ○水準どおり（1点） △水準を下回る（0点）

【一次評価結果】

合計点	一次評価結果
39点	B

標準点※1	評価基準※2	S	46点以上
34点		A	43点～45点
		B	30点～42点
		C	29点以下

※1 標準点は、評価項目が全て中位の評価を受けた場合の得点。

※2 「S」は標準点の1.33倍以上の場合、
「A」は標準点の1.25倍以上かつ1.33倍未満の場合、
「B」は標準点の0.88倍より大きくかつ1.25倍未満の場合、
「C」は標準点の0.88倍以下の場合。

【確認事項】

指定管理者の財務状況について
代表団体においては、借入金が存在せず、取り崩せる財源余力はあるが、公的機関であるにもかかわらず6期連続正味財産増減額が赤字となっていることには留意する必要がある。なお、構成団体は(株)ティップネスについては4期連続赤字であり、回復の兆しは見えるもののそのスピードは遅い。

特命要件の継続状況
東京2020大会の開催にあたり、準備から大会終了後の運営再開まで都立施設として適切な役割を果たした。なお、次期選定は公募にて実施。

4. 東京辰巳国際水泳場

管理状況	適切な管理の履行		配点	評価	評価の内容
	協定や事業計画に沿って、施設の安全性を確保しつつ、適切に管理が行われているか				
	(1) 施設・設備の適切な管理（安全性の確保）	×2	◎	(1) 日常点検については、機器により毎時点検、及び午前、午後、夜間の3回、設備員が巡回点検を行っている。定期点検については、「年間業務実施計画書・報告書」に基づいて行っている。故障不具合発生時には、設備職員による応急措置を行い、同設備のメンテナンス業者へ連絡し迅速に対応している。復旧まで時間を要した可動床や受水槽の故障については、運用方法を工夫し営業に支障が出ない様対応した。	
	(2) 施設の清掃（清潔さ）	×1	○	(5)閉館に伴い、これまでの感謝の意を込めて10月1日「無料サービスデー」を実施した。令和4年度は、「日本選手権水泳競技大会 アーティスティックスイミング競技」「全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会」「日本学生選手権水泳競技大会 競泳競技」「日本選手権水泳競技大会 水球競技」「日本選手権水泳競技大会(25m)」「JAPAN OPEN 2022」「KOSUKE KITAJIMA CUP 2023」等の大規模大会を積極的に誘致した。	
	(3) 施設の警備	×1	○		
	(4) 人員配置及び人材育成の取組	×1	○		
	(5) 施設の提供について	×1	○		
	法令等の遵守		配点	評価	評価の内容
	個人情報保護、報告等は適切に行われているか				
	(1) 個人情報保護・情報セキュリティ	×1	○	(3)アリーナ照明は、通年で2割削減を継続実施している。特に、夏期は電力不足に備え、冷凍機の運転台数を可能な限り1台としている。また、令和4年度より東京都グリーン購入ガイドに基づき「水準2」を満たしている電力会社に契約変更を実施した。	
(2) 情報公開の取組	×1	○	(4)「辰巳国際水泳場の管理運営に関する基本協定」第8条により、管理運営にあたって各担当で守るべき法令等は必要に応じて備え遵守している。また、全職員に必須となる「東京都体育施設条例」は要覧の資料にも掲載し、常時確認が出来るようになっている。		
(3) 環境配慮への取組	×1	○			
(4) 各種法令等の遵守	×1	○			
緊急時の対応		配点	評価	評価の内容	
災害や事故への備えが適切に行われているか					
(1) 都への報告・連絡	×1	○	(2)危機管理マニュアルを策定し、各部門で手元に置き、緊急時に対応できるようにしている。「消防計画」の体制図に基づき連絡体制を構築し、災害発生時には不在者へは緊急連絡網を用いて情報共有を図っている。東京辰巳国際水泳場の消防計画(令和3年4月26日付)に添付されている避難経路図を、観客席等に係る導線各所に掲示している。		
(2) 防災への配慮・緊急時対策	×1	○	(3)公益財団法人東京都スポーツ文化事業団事務局が代表して施設所有管理者特約付帯賠償責任保険に加入している。		
(3) 事故への対応	×1	○			
適切な財務運営・財産管理		配点	評価	評価の内容	
適切な財務運営・財産管理が行われているか					
(1) 収支状況（安定的な運営）	×2	○	(3)水泳関係用具は、(公財)日本水泳連盟公認の安全性の高い物を購入している。また、使用前には目視等で損傷がないか点検している。閉館準備に伴い、7月に確認点検作業を実施。大量の廃棄品が予想されるため、廃棄業者と綿密に打合せを行い計画的に廃棄している。「施設備品及び物品管理業務実施要領」に基づき、使用不可になった物品は、東京都「使用不適品報告書」及び「物品亡失・損傷報告書」により遅滞なく報告している。		
(2) 経理処理	×1	○			
(3) 物品の管理	×1	◎			

事業効果	利用状況		配点	評価	評価の内容
	利用促進効果				
	(1) 利用状況	×2	○	(1) 令和4年度の個人利用者数は、36,572人。感染症対策として、ロッカーの使用制限(男子165、女子169使用)対応を行っている。団体利用については、メインプール91.7%、サブプール81.9%、ダイビングプール54.2%であった。メインの稼働率に関して、1日当り4～5団体減少している。新型コロナウイルス感染により、レーン貸し団体の自粛が考えられる。	
	事業の取組		配点	評価	評価の内容
	事業計画通りのサービスが提供されているか				
	(1) スポーツ振興事業又は障害者スポーツ振興事業の実施状況	×2	○	(3)水泳に必要な用具や、軽食・スナック菓子類をレストラン内及び売店にて販売している。閉館になることの影響と推察しているが、辰巳のロゴ入りキャップの購入希望者が多く、需要に対応してもらうよう水泳場からレストラン業者に情報提供し、協力を得ている。レストラン利用者数の増員を図るため、SNSで本日のランチメニューの発信や館内、シャトルバス内に営業案内を掲示し周知に努めている。	
	(2) 自主事業の実施状況	×2	○	(5)令和4年度は、「スポーツの日記念」と「東京2020大会の1周年記念」のレガシー事業としての位置づけでイベントを実施した。内容はプールを無料公開すると共に、オリンピックによるデモンストレーションやスペシャルレッスン、プール場内とベテストリアンデッキでのアトラクション、アーカイブコーナーでの写真撮影等を実施。オリンピックの熱心な指導もあって参加者の満足度が非常に高かった。令和4年度末に閉館を迎えるにあたり、利用者の方に感謝の意を表すため、無料一般公開の他、「映像によるスタートレッスン」「ワンポイントアドバイス」「スイムチャレンジ記録会」、プールエリア内での写真撮影を実施。	
	(3) 利用者に対するサービス提供事業の実施状況	×2	◎	(8)隣接する東京港埠頭株式会社管理の「辰巳の森海浜公園」の駐車場について、当水泳場の利用する障がい者の方に対し、無料券の配付手続きについて委託を受けている。水泳場閉館後の後利用に関連して、工事前調査として、地盤調査、アスベスト調査等に協力し、今後の円滑な工事調整に助力している。老朽化が見受けられる設備状況、備品の幹旋及び後利用のための残置仕分けに関しては、閉館日までに引継ぎを終了出来るよう、綿密に東京都との現場確認や協議調整を複数回行っている。	
	(4) 利用者ニーズの把握	×2	○		
	(5) サービス向上に向けた取組	×2	◎		
(6) 苦情等への対応	×1	○			
(7) 利用促進への取組	×2	○			
(8) 都の施策への協力等	×2	◎			

※評価： ◎水準を上回る（2点） ○水準どおり（1点） △水準を下回る（0点）

【一次評価結果】

合計点	一次評価結果
43点	A

標準点 ※1	評価基準 ※2	S	46点以上
34点		A	43点～45点
		B	30点～42点
		C	29点以下

※1 標準点は、評価項目が全て中位の評価を受けた場合の得点。

※2 「S」は標準点の1.33倍以上の場合、「A」は標準点の1.25倍以上かつ1.33倍未満の場合、「B」は標準点の0.88倍より大きくかつ1.25倍未満の場合、「C」は標準点の0.88倍以下の場合。

【確認事項】

指定管理者の財務状況について
代表団体である(公財)東京都スポーツ文化事業団は、6期連続赤字ではあるが、公益財団として収益源が確実に確保されており比較的安定的に運営され、(公財)東京都水泳協会も同様である。(株)オーエンスの経営成績は好調であり、セントラルスポーツ(株)は業界全体の経営悪化の中でも堅実な業績を維持した。

特命要件の継続状況
東京2020大会の開催にあたり、準備から大会終了後の運営再開まで都立施設として適切な役割を果たした。なお、令和4年度末をもって閉館した。

5. 有明テニスの森公園テニス施設

管理状況	適切な管理の履行		配点	評価	評価の内容
	協定や事業計画に沿って、施設の安全性を確保しつつ、適切に管理が行われているか				
	(1) 施設・設備の適切な管理（安全性の確保）	×2	△		
	(2) 施設の清掃（清潔さ）	×1	○		
	(3) 施設の警備	×1	○		
	(4) 人員配置及び人材育成の取組	×1	○		
	(5) 施設の提供について	×1	○		
	法令等の遵守		配点	評価	評価の内容
	個人情報保護、報告等は適切に行われているか				
	(1) 個人情報保護・情報セキュリティ	×1	○		(1)マイナンバー制度への対応として、「特定個人情報の適正な取扱いに関する基本方針」及び「特定個人情報管理規程」を整備し職員へ周知。情報セキュリティ部門による年1回の自主監査や定期的な標的型攻撃メール訓練を行うことで情報管理体制のチェックを行い、情報管理体制に不備がないか振り返りを行った。
(2) 情報公開の取組	×1	○		(3)電気需給業者の見直しを検討し、再生可能エネルギーの活用が全電力量の30%以上を占める事業者からの電力の調達を行った。コロシアムの電気、水道、ガスについては、毎日利用状況を確認し、異常値の発生が起きた場合には、迅速に対応するよう監視体制を整えた。	
(3) 環境配慮への取組	×1	○			
(4) 各種法令等の遵守	×1	○			
緊急時の対応		配点	評価	評価の内容	
災害や事故への備えが適切に行われているか					
(1) 都への報告・連絡	×1	○		(2)初動対応マニュアル及び緊急時アクションマニュアルを整備し、緊急時には直ちに現地対策本部を立ち上げ東京都及び埠頭株式会社と連絡を取りながら対応する。防災訓練実施計画及び一時滞在施設開設訓練実施計画により、令和4年度初めて、防災公園と連携して一時滞在施設開設訓練を1日かけて実施した。また、具体的設定に基づき、役割分担を明確にして適切に行った。	
(2) 防災への配慮・緊急時対策	×1	◎			
(3) 事故への対応	×1	○			
適切な財務運営・財産管理		配点	評価	評価の内容	
適切な財務運営・財産管理が行われているか					
(1) 収支状況（安定的な運営）	×2	◎		(1)東京都財務局施工の改修工事施工中ではあるが調整を重ね、コロシアムなど大会・イベント利用の実施を行い、収入増としました。HTTの趣旨を踏まえて、クラブハウス事務所内照明の一部消灯、冷暖房設備の細目なスイッチオフ等を行い、経費削減に努めた。	
(2) 経理処理	×1	○		(3)自己点検の際、不具合箇所を発見した場合は修繕を行っているが、安全面及び部品の調達が難しい備品については、東京都へ報告のうえ専門業者に依頼して廃棄として、マニフェスト伝票を添え適切に廃棄している。	
(3) 物品の管理	×1	○			

事業効果	利用状況		配点	評価	評価の内容
	利用促進効果				
	(1) 利用状況	×2	○		(1)令和4年度は、公園全域で東京都の改修工事が行われているなか、一部施設の供用を行った。インドアコートの利用率が約8割、ショーコートが5割強、コロシアムが4割弱と、一定の稼働をしている。改修工事中でも、コロシアムで4割の利用率となるなど、一定数団体利用がある。
	事業の取組		配点	評価	評価の内容
	事業計画通りのサービスが提供されているか				
	(1) スポーツ振興事業又は障害者スポーツ振興事業等の実施状況	×2	○		(1)有明の森テニスフェスタでは、親子から小学校低学年・高学年、中学生以上、一般まで多くのクラスを用意したテニスクリニックを実施した。アンケートではすべてのプログラムにおいて「楽しかった」割合が9割以上であり、テニスを初めて経験する割合が約1/4といることから、テニスのすそ野を広げる事業として効果的であった。
	(2) 自主事業の実施状況	×2	-		(3)クラブハウスに飲料の自販機を3台設置した。令和5年度の全面オープン時に更に台数を増やす予定。
	(3) 利用者に対するサービス提供事業の実施状況	×2	○		(5)お客様から更衣室の中が土足なのでシャワー後に足が汚れるとの意見があったことから、スリッパの設置を行い、土が付かないよう配慮した。クラブハウスへの入り口が分かりにくいとの指摘があったので、コロシアムブリッジからシンボルロード内、区道沿いに案内表示を設置した。
	(4) 利用者ニーズの把握	×2	○		(8)当施設と隣接する臨海地区の海上公園を一体的に紹介したエリアマップを作成・配布し地域全体の広報を行った。また、同じ指定管理者として、イベントや工事・要望苦情を共有する定例会議を毎月実施した。
	(5) サービス向上に向けた取組	×2	○		東京都財務局及び園内改修工事の施工業者と週1回の定例会議を開催し、東京都工事に適切に協力をし、工事が円滑に進むよう調整を行った。利用者の入場や搬入作業等が滞りなく進むよう調整したことで、秋のテニス3大会やユニクロイベント、Vリーグなどコロシアムのイベント等活用についていずれも事故なく成功させることができた。
(6) 苦情等への対応	×1	○			
(7) 利用促進への取組	×2	○			
(8) 都の施策への協力等	×2	◎			

※評価： ◎水準を上回る（2点） ○水準どおり（1点） △水準を下回る（0点）

【一次評価結果】

合計点	一次評価結果
35点	B

標準点 ※1	評価基準 ※2	S	43点以上
32点		A	40点～42点
		B	29点～39点
		C	28点以下

※1 標準点は、評価項目が全て中位の評価を受けた場合の得点。

※2 「S」は標準点の1.33倍以上の場合、
「A」は標準点の1.25倍以上かつ1.33倍未満の場合、
「B」は標準点の0.88倍より大きくかつ1.25倍未満の場合、
「C」は標準点の0.88倍以下の場合。

【確認事項】

指定管理者の財務状況について
代表団体である東京港埠頭(株)は、平成20年4月解散した財団法人東京港埠頭公社を引き継いだもので、公的事業を多く手掛け、収益力も高く財務的には安定している。(公社)日本テニス事業協会は、公益社団として(ほぼ)収支均衡の経営をしている。全体として財務上の問題はないと考えられる。

特命要件の継続状況
東京2020大会の開催にあたり、準備から大会終了後の運営再開まで都立施設として適切な役割を果たした。なお、次期選定は公募にて実施。

6. 若洲海浜公園ヨット訓練所

管理 状 況	適切な管理の履行		配点	評価	評価の内容
	協定や事業計画に沿って、施設の安全性を確保しつつ、適切に管理が行われているか				
	(1) 施設・設備の適切な管理（安全性の確保）	×2	△		(1)港湾局施設である若洲ゴルフリンクスと、電気と水の設備が共有されているが、設備不具合について対応があいまいである。責任分界を明確にし、施設管理者として連絡体制及び修理等のプロセスを明確にする必要がある。電気設備、監視カメラ、風向計、給湯器など、日々の点検状況や整備記録が確認できない設備があった。定期点検で不具合が発見された項目について、その後の是正状況などを確認できる資料が無かった。維持管理業務仕様書に記載のある設備で、年度事業計画書に計画されていないものがあった。
	(2) 施設の清掃（清潔さ）	×1	○		(2)日常清掃については、利用者の多い教室開催日の土曜、日曜、祝日を中心に前後の平日も実施した。令和4年度からシャワールームの排水溝の目詰まりが起きないよう繁忙時期の土日のあと月曜日に排水溝の清掃を行い利用者サービスにも努めた。
	(3) 施設の警備	×1	○		
	(4) 人員配置及び人材育成の取組	×1	○		
	(5) 施設の提供について	×1	○		
	法令等の遵守		配点	評価	評価の内容
	個人情報保護、報告等は適切に行われているか				
	(1) 個人情報保護・情報セキュリティ	×1	○		(1)個人情報の電子データは、機密情報フォルダ内に保管し、関係者以外閲覧できないように制限している。また、メールについてメール送信セキュリティシステムを導入しており安全管理に努めた。
(2) 情報公開の取組	×1	○		(3)省エネルギーへの取組については、エアコンの温度調整のほか、貼紙により節電や節水への協力を呼びかけた。緑地維持で発生した剪定枝を堆肥やコンパネ材として再利用し、廃棄物については分別処分を適切に実施した。	
(3) 環境配慮への取組	×1	○			
(4) 各種法令等の遵守	×1	○			
緊急時の対応		配点	評価	評価の内容	
災害や事故への備えが適切に行われているか					
(1) 都への報告・連絡	×1	○		(2)令和4年10月に補充はあったものの、災害備蓄品の在庫表が令和4年2月のまま更新されていなかった。	
(2) 防災への配慮・緊急時対策	×1	△		(3)練習時間内においてヨット利用者間の事故等が発生し、連絡体制、練習区域等に保安部より指摘があり、これを是正した。事故発生時には迅速な対応が行えるよう、東京都(生活文化スポーツ局)や埠頭(株)本社との緊急連絡網の体制を整備するとともに、消防や警察等の連絡先を執務室内に掲示している。	
(3) 事故への対応	×1	○			
適切な財務運営・財産管理		配点	評価	評価の内容	
適切な財務運営・財産管理が行われているか					
(1) 収支状況（安定的な運営）	×2	◎		(1)令和4年度の収入について、ヨット教室については夏場のコロナの影響で学校閉鎖によりジュニアの利用者が減少したこと、冬場の荒天中止や低温により参加者が少なかったことで利用者数は前年比で減となったが、創意工夫のもと、撮影等では増、臨時駐車場も増、会議室も増とヨット教室のマイナス分を大きく超過できた。緑地管理などの維持管理業務の一部は、隣接する海浜公園と同じ委託事業者を使用するなど経費低減の取組をはかっている。	
(2) 経理処理	×1	○			
(3) 物品の管理	×1	○			

事業 効果	利用状況		配点	評価	評価の内容
	利用促進効果				
	(1) 利用状況	×2	○		(1)令和4年度におけるヨット教室の利用者は1,302人で、令和3年度の1,348人から46人減と微減となった。令和4年度は荒天中止や気温低下のため人数不足で催行できなかったことなどの影響があったためと思われる。撮影等、臨時駐車場、会議室の利用は増加している。
	事業の取組		配点	評価	評価の内容
	事業計画通りのサービスが提供されているか				
	(1) スポーツ振興事業又は障害者スポーツ振興事業等の実施状況	×2	◎		(1)障がい者体験乗船会及び障がい者ヨット教室の運営にあたっては、令和4年度も関係団体(日本セーリング連盟、日本障がい者セーリング協会、日本視覚障がい者セーリング協会)との連携による運営を行った結果、事故無く安全に乗船会を行うことができた。また、開催できなかった東京都障がい者スポーツ大会の代替としてJPモルガンバラ体験会を開催した。特に、障害者の体験乗船会に力をいれており、実施回数も昨年度から大幅増(令和3年度3回実施、令和4年度11回実施)となっている。
	(2) 自主事業の実施状況	×2	◎		(2)「TOKYO JUNIOR YOUTH」高等学校ヨット部活動支援事業、「ジュニアユースセーリング部支援事業」などの育成事業を継続的に取り組み、計画以上の参加人数を確保している。また、コロナ禍ではあったが感染拡大防止対策を十分に講じたうえ、事業計画では年1回としているヨット体験乗船会を年2回実施した。ミキハウスカップの代替としてミラー級50周年記念レースを実施するなど、主催者都合により中止となった大会については、代替措置として別大会を実施する工夫を行っている。
	(3) 利用者に対するサービス提供事業の実施状況	×2	○		(3)撮影については、夏休み期間は平日もヨット教室等を開催するため、撮影関係者の車両と利用者の事故防止により撮影不可期間を設定した。撮影不可期間は撮影可能となる日を案内したため前年比で受入件数を増やすことができた。臨時駐車場や会議室についても、撮影予約時に利用案内したことで件数増につながった。
	(4) 利用者ニーズの把握	×2	○		
	(5) サービス向上に向けた取組	×2	○		
(6) 苦情等への対応	×1	○			
(7) 利用促進への取組	×2	○			
(8) 都の施策への協力等	×2	○			

※評価： ◎水準を上回る（2点） ○水準どおり（1点） △水準を下回る（0点）

【一次評価結果】

合計点	一次評価結果
37点	B

標準点 ※1	評価基準 ※2	S	46点以上
34点		A	43点～45点
		B	30点～42点
		C	29点以下

※1 標準点は、評価項目が全て中位の評価を受けた場合の得点。

※2 「S」は標準点の1.33倍以上の場合、「A」は標準点の1.25倍以上かつ1.33倍未満の場合、「B」は標準点の0.88倍より大きくかつ1.25倍未満の場合、「C」は標準点の0.88倍以下の場合。

【確認事項】

指定管理者の財務状況について
代表団体である東京港埠頭(株)は、平成20年4月解散した財団法人東京港埠頭公社を引き継いだもので、公的事業を多く手掛け、収益力も高く財務的には安定している。構成企業であるNPO法人マリンプレイス東京は2期連続赤字であるとともに、財務諸表の適正性に懸念が見られる。構成企業である(株)ティアンドケイは2期連続黒字となり安定している。

特命要件の継続状況
東京2020大会の開催にあたり、大会の機運醸成を図るなど、都立施設として適切な役割を果たした。なお、次期選定は公募にて実施。

7. 武蔵野の森総合スポーツプラザ

【一次評価結果】

合計点	一次評価結果
38 点	B

標準点 ※1	評価基準 ※2	S	46点以上
34 点		A	43点～45点
		B	30点～42点
		C	29点以下

※1 標準点は、評価項目が全て中位の評価を受けた場合の得点。

※2 「S」は標準点の1.33倍以上の場合、
「A」は標準点の1.25倍以上かつ1.33倍未満の場合、
「B」は標準点の0.88倍より大きくかつ1.25倍未満の場合、
「C」は標準点の0.88倍以下の場合。

【確認事項】

指定管理者の財務状況について
代表団体である(株)東京スタジアムは赤字企業であるが東京都等地方自治体が主な株主のため、経営に不安はない。(株)京王設備サービス、東京ビジネスサービス(株)のように構成団体の中にも業績が堅調の企業もあるが、(株)東京ドームスポーツのように再び経営が悪化しているものもある。今後の光熱水費等の上昇状況が懸念される。

管理状況	適切な管理の履行		配点	評価	評価の内容
	協定や事業計画に沿って、施設の安全性を確保しつつ、適切に管理が行われているか				
	(1) 施設・設備の適切な管理（安全性の確保）	×2	△	(1) 設備機器の不具合に可能な限り早期に対応し、利用者に不便を強いることがないよう、設備部門の職員に技術力や知識のある者を配置している。外部委託する際にも的確に症状を伝え、早期かつ低コストで対応することができている。昼間一時間て3名体制が取れていない日があった。維持保全業務仕様書で設定されている屋上緑化の点検表がなかった。また、障害報告書について、事象発生時と補修後の写真添付がないものが一部あった。	
	(2) 施設の清掃（清潔さ）	×1	○	(4) イベント開催時は、必要に応じて主催者・味スタに警備などの人員配置を求め、来場者の安全と衛生を確保している。	
	(3) 施設の警備	×1	○	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ジム・プール受付における体調チェック、共用部分や更衣室ロッカー等の消毒のため、人員を追加で配置。	
	(4) 人員配置及び人材育成の取組	×1	○		
	(5) 施設の提供について	×1	○		
	法令等の遵守		配点	評価	評価の内容
	個人情報保護、報告等は適切に行われているか				
	(1) 個人情報保護・情報セキュリティ	×1	○	(2) 地球温暖化対策計画に基づき、地熱ヒートポンプ、太陽熱利用設備、太陽光発電等再生可能エネルギーを効率的に使用することにより、二酸化炭素排出量の削減に取り組んでいる。自主的に業者と契約し、バイオガスの発電エネルギー再利用に取り組んでいる。消費エネルギーや発電量のモニター表示やHTTのポスター等の掲示、利用していないエリアの積極的な消灯・減灯などにより、利用者に対する啓発を行っている。学校の社会科見学受け入れ時に、サブアリーナ屋上の太陽光パネルや地下の蓄電設備などの再生エネルギー関係の設備を案内・説明することで、次世代に向け環境学習を行っている。	
(2) 情報公開の取組	×1	○			
(3) 環境配慮への取組	×1	◎			
(4) 各種法令等の遵守	×1	○			
緊急時の対応		配点	評価	評価の内容	
災害や事故への備えが適切に行われているか					
(1) 都への報告・連絡	×1	○	(3) 防災訓練時には、消火器訓練等も併せて実施している。職員の着任時には、施設案内とともに、地下の備蓄倉庫の場所を確認し、一時滞在施設の説明を行っている。隣接の味の素スタジアムと合同でさまざまな訓練を実施し、不審者対応に備えている。社員全員が、配属後速やかに普通または上級救命講習を受講している。消防の自主検査表について、所定の箇所ものが数か月分つづられていなかったり、火気のある場所だと思われるカフェの点検票がファイルに無かった。		
(2) 防災への配慮・緊急時対策	×1	△			
(3) 事故への対応	×1	○			
適切な財務運営・財産管理		配点	評価	評価の内容	
適切な財務運営・財産管理が行われているか					
(1) 収支状況（安定的な運営）	×2	○	(1) 提案時と比較し、キャッシュレス対応など必要経費が増加していることに加え、新型コロナウイルス感染症の影響による収入の減少や、光熱水費の高騰などにより、指定管理料の低減は著しく困難であるが、きめ細やかに収支状況を確認し、可能な限り収支の差を小さくできるよう取り組んでいる。		
(2) 経理処理	×1	○			
(3) 物品の管理	×1	○			

事業効果	利用状況		配点	評価	評価の内容
	利用促進効果				
	(1) 利用状況	×2	○	(1) 東京都の感染拡大防止ガイドラインを参考とし、利用を制限中ではあるが、適切な感染症対策を講じるとともに、利用者へ寄り添った運営を行うことで、個人利用では年間14万人を超えるお客様に、団体利用では年間45万人を超えるお客様に会場いただいた。	
	事業の取組		配点	評価	評価の内容
	事業計画通りのサービスが提供されているか				
	(1) スポーツ振興事業又は障害者スポーツ振興事業の実施状況	×2	◎	(1) 現役アスリートや元オリンピック・アスリートにスポーツ指導を受けられるコンテンツを提供し、スポーツを始めるきっかけや継続の動機付けを目指した。令和4年度からアンケート用紙を「やさしい日本語」表記としたことで、子どもや外国人からも直接意見をもらうことができた。盲導犬用のペットシートを準備したり、プールのレーンを端に設定して利用しやすくするなどの工夫をしている。	
	(2) 自主事業の実施状況	×2	◎	(2) 都度利用に加え、月会員(7000円)を設定し、使い方に応じた料金体系を提供することで利用者のニーズに応えている。利用者に新たな体験の提供やメニュー更新の検討のため、週1回「お楽しみレッスン」を実施。ここでの利用者の反応や参加率を参考に、メニューの入替を検討している。	
	(3) 利用者に対するサービス提供事業の実施状況	×2	○	(8) 料金体系において子ども料金を、スポーツ振興事業などの事業実施においては、親子枠、子ども枠を設けた。子ども向けのスイミングやダンス、バレエ教室などを実施し、子どもたちがスポーツに触れることができる機会を積極的に設けた。また、子供政策連携室が運営するHPへ情報提供を行った。(チルドレンファースト)	
	(4) 利用者ニーズの把握	×2	○	東京都が地元4市と締結した風水害緊急時避難場所施設利用の協定について、指定施設管理者として、現地調査やマニュアル内容の検討等に協力している。(TOKYO強靱化プロジェクト)	
	(5) サービス向上に向けた取組	×2	○	近隣の東京外国語大学との連携による事業実施。(国際コミュニケーション講座・やさしい日本語教室)	
(6) 苦情等への対応	×1	○			
(7) 利用促進への取組	×2	○			
(8) 都の施策への協力等	×2	◎			

※評価： ◎水準を上回る（2点） ○水準どおり（1点） △水準を下回る（0点）

8. 海の森水上競技場

管理状況	適切な管理の履行		配点	評価	評価の内容
	協定や事業計画に沿って、施設の安全性を確保しつつ、適切に管理が行われているか				
	(1) 施設・設備の適切な管理（安全性の確保）	×2	○	(1)日常巡視点検は毎日スタッフによる巡回点検を行い不具合箇所等を発見した場合は速やかに修繕等を実施している。 (3)務所スタッフによる毎日の巡回警備を実施している。また、適時にボートによる水面監視も実施している。営業時間外について、艇庫棟、GS棟、FT棟は機械警備を設置し、24時間対応している。また、夜間における緊急対応のために従業員が常駐する体制をとっている。 (5)令和4年度の利用は、ボート大会（第100回全日本選手権大会、国体ブロック予選等）、カヌー大会（国体都予選およびブロック予選、江東区子どもカヌー大会）をはじめ、海の森水上競技場で初開催となるトライアスロン大会やアクアスロン大会、ドラゴンボート大会といった水上競技大会が開催された。さらには、秋頃よりボートやカヌーの大学や企業チームに対して、合宿利用の営業を実施した。	
	(2) 施設の清掃（清潔さ）	×1	○		
	(3) 施設の警備	×1	○		
	(4) 人員配置及び人材育成の取組	×1	○		
	(5) 施設の提供について	×1	○		
	法令等の遵守		配点	評価	評価の内容
	個人情報保護、報告等は適切に行われているか				
	(1) 個人情報保護・情報セキュリティ	×1	○	(1)年に1度研修を実施し、個人情報保護規則を再度職員で確認している。PCは個人ごとにID、パスワードが設定されている。また、代表者である公園財団本部においてウイルス対策をしている。 (3)令和3年度に引き続き、都が定める再エネ率をクリアした電力会社と契約している。電気の切り忘れを案内する表示を設置したり、東京都が推進するHTTキャンペーンポスターを掲示して省エネについて利用者へ周知を図っている。また、トイレの小便器において自動排水のタイミングを調整するなど節水対策を行っている。GS棟についてはトイレ洗浄水に雨水を使い節水している。	
(2) 情報公開の取組	×1	○			
(3) 環境配慮への取組	×1	○			
(4) 各種法令等の遵守	×1	○			
緊急時の対応		配点	評価	評価の内容	
災害や事故への備えが適切に行われているか					
(1) 都への報告・連絡	×1	○	(1)事故発生時や台風被害状況など必要に応じてメールや携帯電話において報告や指示を受ける体制ができています。なお、令和4年度の報告案件としては、水面利用時のボート艇の船体に引っかかり傷の発生、水面利用者による水上設備（カウンタースタイル）の破損、コースロープの破断、新型コロナウイルス陽性者の報告を行った。 (2)AEDを艇庫棟1Fエントランスおよびグランドスタンド棟1Fエントランスに各1台設置しており、来館者からも目立ちやすい場所に専用ボックスを設置している。		
(2) 防災への配慮・緊急時対策	×1	○			
(3) 事故への対応	×1	○			
適切な財務運営・財産管理		配点	評価	評価の内容	
適切な財務運営・財産管理が行われているか					
(1) 収支状況（安定的な運営）	×2	◎	(1)東京ロケーションボックスへの登録もあって、撮影や企業の新商品発表会などの利用が想定以上に増えており収入に寄与している。また経費削減のため、職員による芝刈りや水門の一部操作、日常的に取り組める節電、節水、裏紙利用などを行っている。 (3)管理運営の基準に基づいて物品整理簿を作成し、整理簿と物品を確認し棚卸しを実施している。また、保有艇にナンバリングを行い、貸し出しの都度、紛失や破損チェックを行っている。		
(2) 経理処理	×1	○			
(3) 物品の管理	×1	○			

事業効果	利用状況		配点	評価	評価の内容
	利用促進効果				
	(1) 利用状況	×2	△	(1)施設運営計画時の目標大会数・来場者数に到達していない。令和5年度の利用に向けて、引き続き積極的に大会誘致や来場者数増加に向けた取組を行っていく。	
	事業の取組		配点	評価	評価の内容
	事業計画通りのサービスが提供されているか				
	(1) スポーツ振興事業又は障害者スポーツ振興事業等の実施状況	×2	○	(1)4月29日の再開業を皮切りに様々なイベントを開催している。主な施設利用はボート全日本選手権（5月）、国体・カヌー東京都予選（5月）、水上スポーツ体験会（6月）、トライアスロン大会（6月）、国体・ボート関東ブロック（7月）、TOKYO ISLAND（9月）、海の森スポーツフェスタ（10月：水上競技の他、バドミントン、車いすバスケ、サーフィン、ボクシング、ランニング、ポッチャなど）、どなたでも参加可能なフィットネスとして健康体操教室などがあげられ様々なニーズに対応した利用を実現できた。再開業当初と比較し、水面利用者が徐々に増加してきている。学生団体の利用に関してニーズ調査を行った結果、資金面やアクセス面で課題を挙げる学校が多かったため、割安の「合宿プラン」の設定や、シャトルバスによる迎車を実施して営業、誘致を行った。石川県のカヌー大会、戸田のボート大会に実際に足を運びPRを行った。これら取組によって秋から冬にかけて合宿利用が増加した。 (3)再開業を迎え宿泊室も稼働し、宿泊アメニティの販売、宿泊者へのドライバー貸出などニーズに合わせたサービスを開始した。合宿や研修の食事提供事業として、ビュッフェ形式での食事提供や仕出し弁当の提供を行うなど、ニーズを取り入れた事業として進めている。当初、自動販売機については飲料のみとしていたが、それ以外のニーズもあったため軽食や菓子といった商品を取扱う自動販売機を導入した。	
	(2) 自主事業の実施状況	×2	○		
	(3) 利用者に対するサービス提供事業の実施状況	×2	○		
	(4) 利用者ニーズの把握	×2	○		
	(5) サービス向上に向けた取組	×2	○		
(6) 苦情等への対応	×1	○			
(7) 利用促進への取組	×2	○			
(8) 都の施策への協力等	×2	○			

※評価： ◎水準を上回る（2点） ○水準どおり（1点） △水準を下回る（0点）

【一次評価結果】

合計点	一次評価結果
34点	B

標準点 ※1	評価基準 ※2	S	46点以上
34点		A	43点～45点
		B	30点～42点
		C	29点以下

※1 標準点は、評価項目が全て中位の評価を受けた場合の得点。

※2 「S」は標準点の1.33倍以上の場合、「A」は標準点の1.25以上かつ1.33倍未満の場合、「B」は標準点の0.88倍より大きくかつ1.25倍未満の場合、「C」は標準点の0.88倍以下の場合。

【確認事項】

指定管理者の財務状況について
一般財団法人公園財団、(株)協栄については業績は好調であり、日建総業(株)は官公庁を主な顧客として堅実な経営を行っているが、野村不動産ライフ&スポーツ(株)は経営環境の悪化により業績が低迷している。経営環境の変化への対応に引き続き注視する必要がある。

9. 夢の島公園アーチェリー場

管理状況	適切な管理の履行		配点	評価	評価の内容
	協定や事業計画に沿って、施設の安全性を確保しつつ、適切に管理が行われているか				
	(1) 施設・設備の適切な管理（安全性の確保）	×2	○		(3)毎日2回夢の島公園とともにアーチェリー場内の巡回点検を実施。巡回点検時に併せて施設確認等実施。年末年始休場中は警備会社による巡回点検を実施。事務所(夢の島熱帯植物館内)に関しては機械警備を実施。 (5)管理運営基準及び関連書式に沿って、利用団体の予約受付・許可手続きをしているが、ダブルチェックが出来ておらず、予約の重複が生じたことがあった。優先受付については、主にアーチェリー団体を対象に、事前の調整を行っている。一般受付については、すべての団体を対象に随時受付を行っている。なお、受付が重複する際には、管理運営基準の優先順位に従い、利用調整を行っている。
	(2) 施設の清掃（清潔さ）	×1	○		
	(3) 施設の警備	×1	○		
	(4) 人員配置及び人材育成の取組	×1	○		
	(5) 施設の提供について	×1	△		
	法令等の遵守		配点	評価	評価の内容
	個人情報保護、報告等は適切に行われているか				
	(1) 個人情報保護・情報セキュリティ	×1	○		(1)個人情報に該当するものは健康管理チェックシート程度。個人情報管理台帳を作成し、施設できる金庫にて保管を行っている。保管期限が過ぎたものから随時処分している。内閣サイバーセキュリティセンターの情報共有システムJISPを使用して、情報を入手している。 (3)公園とともに100%再生エネルギー電力を使用。倉庫等の電源は小まめに切る等を実施している。自動販売機も省エネルギー対応機を設置。自動販売機から発生するペットボトルについては設置者で回収しリサイクルしている。その他のゴミに関しては清掃スタッフで回収し分別の後、廃棄物処理業者に引き渡している。
(2) 情報公開の取組	×1	○			
(3) 環境配慮への取組	×1	○			
(4) 各種法令等の遵守	×1	○			
緊急時の対応		配点	評価	評価の内容	
災害や事故への備えが適切に行われているか					
(1) 都への報告・連絡	×1	○		(1)東京都の担当が変わる度に、緊急連絡網の情報を随時更新し、公園・植物館と情報共有している。 (2)マニュアルを整備し職員全員に周知している。夢の島公園と合わせて、気象災害対策計画書、消防計画書を作成。利用団体に対しては避難誘導経路などを随時説明している。東京都の一時滞在施設としての指定はないが、職員が災害時でも対応できるよう必要な備蓄を行っている。	
(2) 防災への配慮・緊急時対策	×1	○			
(3) 事故への対応	×1	○			
適切な財務運営・財産管理		配点	評価	評価の内容	
適切な財務運営・財産管理が行われているか					
(1) 収支状況（安定的な運営）	×2	◎		(1)利用者収入は計画よりも増。また大規模利用も増えており計画の4倍ほどの体育施設利用料収入。支出は消耗品的、的台等の内、畳60枚を更新。的台の修理も随時行っていく。利用の拡大を図り指定管理料の低減につなげるよう努力している。 (3)芝刈り機等、東京都が初期配備した備品について、いつでも使える状態になっていないため、適切な維持管理が必要。	
(2) 経理処理	×1	○			
(3) 物品の管理	×1	△			

事業効果	利用状況		配点	評価	評価の内容
	利用促進効果				
	(1) 利用状況	×2	○		(1)令和4年度団体利用コマ数は244コマで、利用率は令和3年度より下がっているが、利用コマ数自体は大幅に増加している。
	事業の取組		配点	評価	
	事業計画通りのサービスが提供されているか				
	(1) スポーツ振興事業又は障害者スポーツ振興事業等の実施状況	×2	△		(1)スポーツ振興事業は、年に1回しか実施できていない。 (2)令和4年10月9日、スポーツの日記念イベントを東京都と共催で実施し、約500名の参加者にお越しいただくなど盛況だった。 (5)アーチェリーに関しては、大会の規模や事前準備などを考慮し、時に7:30より解錠して準備を行うなど、臨機応変に利用者サービスを実施。 (7)WEBサイトを刷新し、イベントの情報などを中心に告知活動を行ってきた。また、イベントのチラシは近隣施設のBumBや、最寄駅の新木場駅にも置いてもらった。WEBサイトと連動したツイッターも実施している。イベント情報のほか、施設概要、一般開放時の注意点やアーチェリー、その他スポーツの注意点等を掲載している。 (8)夢の島公園と連携し、アーチェリー場責任者不在の際も施設利用者に対応し質の高いサービスを提供した。地域企業や団体との連絡会(新木場連絡会)をグループが主催。施設を活用して地域活性化に努めている。最新の感染防止ガイドライン等を参照しながら健康チェックシートの回収、受付の消毒液の設置、マスクの必携の指導等、人が集まるところでは常に心がけている。パートナーシップ会議に出席して、意見交換等を積極的に行った。
	(2) 自主事業の実施状況	×2	○		
	(3) 利用者に対するサービス提供事業の実施状況	×2	○		
	(4) 利用者ニーズの把握	×2	○		
	(5) サービス向上に向けた取組	×2	○		
(6) 苦情等への対応	×1	○			
(7) 利用促進への取組	×2	○			
(8) 都の施策への協力等	×2	○			

※評価： ◎水準を上回る（2点） ○水準どおり（1点） △水準を下回る（0点）

【一次評価結果】

合計点	一次評価結果
32点	B

標準点※1	評価基準※2	S	46点以上
34点		A	43点～45点
		B	30点～42点
		C	29点以下

※1 標準点は、評価項目が全て中位の評価を受けた場合の得点。

※2 「S」は標準点の1.33倍以上の場合、「A」は標準点の1.25倍以上かつ1.33倍未満の場合、「B」は標準点の0.88倍より大きくかつ1.25倍未満の場合、「C」は標準点の0.88倍以下の場合。

【確認事項】

指定管理者の財務状況について
主に日比谷花壇グループでの構成であるが、経営が悪化しているものもあり、今後の経営動向に注視する必要がある。

特命要件の継続状況
公園の指定管理者が、競技施設を含め、一体的に管理運営を行っている。維持管理の一括化などによって効率化を図るためには、公園と一体的に管理運営していく必要がある。なお、次期選定は公園管理者と併せて公募にて実施。

10. カヌー・スラロームセンター

管理 状 況	適切な管理の履行		配点	評価	評価の内容
	協定や事業計画に沿って、施設の安全性を確保しつつ、適切に管理が行われているか				
	(1) 施設・設備の適切な管理（安全性の確保）	×2	○	(1)毎朝、受付担当者により場内を一通り確認しており、プール内の浮遊物、コンベアの異音等があれば急ぎ連絡が入り、その場で確認、対応することを遵守している。定期的に保守整備を行っている項目として、ろ過機送風ファンのフィルター点検、清掃(3カ月目安)、管理棟空調機点検、フィルター清掃(毎月)が挙げられる。	
	(2) 施設の清掃（清潔さ）	×1	○	(2)一般開放後、多くのお客様が来られ、シャワーの使用量が大幅に増加した。定期点検時にシャワーヘッドを分解確認したところ、かなりの付着物が固着しており、従来の洗浄方法(中性洗剤漬け置き)では除去できず、今回はクエン酸と重曹により化学的に除去を行った。	
	(3) 施設の警備	×1	○	(4)管理運営基準に記載されている施設監視業務人員を配置している。1日の職員のうち1名は必ず有資格者である。	
	(4) 人員配置及び人材育成の取組	×1	○		
	(5) 施設の提供について	×1	○		
	法令等の遵守		配点	評価	評価の内容
	個人情報保護、報告等は適切に行われているか				
	(1) 個人情報保護・情報セキュリティ	×1	○	(1)ISO27001内の規程に従い情報セキュリティ教育を新規雇用者および継続の雇用者を実施した。	
	(2) 情報公開の取組	×1	○	(3)7月の一般開放より揚水・起流ポンプの運用が複雑になり、朝の時点で当日の利用予定を確認し、不必要なポンプ運転を無くすことでの節電を心がけた。8月よりガスメーターについても毎日検針を行い、無駄のない利用、及びガス漏れによる危険性を監視するようにした。水位低下により給水を行う際に、雨が降っている、または降る事が予想される場合は、それによる増分を踏まえて給水しすぎないように調整を行っている。5月より、利用の多い場所でのCO2濃度を計測するようにした。	
	(3) 環境配慮への取組	×1	○		
(4) 各種法令等の遵守	×1	○			
緊急時の対応		配点	評価	評価の内容	
災害や事故への備えが適切に行われているか					
(1) 都への報告・連絡	×1	○	(1)災害対応マニュアルに準拠し、発生～対応完了までの経緯を含め随時報告・記録している。		
(2) 防災への配慮・緊急時対策	×1	○	(2)確実な気象情報をリアルタイムで収集するためのサービス「MiGATA」を導入しゲリラ豪雨や雷による施設公開中止の判断が即座に出来るようにしている。再開後のラフティングツアー、個人利用での怪我発生の原因を把握し怪我再発防止に取り組むと共に様々なケースを予測しマニュアルに沿って職員が素早く対応出来る様になっている。		
(3) 事故への対応	×1	○			
適切な財務運営・財産管理		配点	評価	評価の内容	
適切な財務運営・財産管理が行われているか					
(1) 収支状況（安定的な運営）	×2	◎	(1)令和4年度は7月後半の開業となり、陸地の工事が続き使用できない状況であることから、設備運転の効率化、業務の効率化と業務の自社化を進めたことで、支出の縮減を進めた。		
(2) 経理処理	×1	○	(3)貸与備品にはシールを貼るなどして管理・識別を行っている。加えて貸与備品は棚卸を行うことで明確に区別している。物品管理は四半期に一回点検実施しており、東京都の指定する物品管理回数(年に1回)より多い。多くの備品を慎重に管理している。		
(3) 物品の管理	×1	◎			

事業 効果	利用状況		配点	評価	評価の内容
	利用促進効果				
	(1) 利用状況	×2	○	(1)7月23日からの個人利用者数は18,672人。団体利用については、7月22日までは再開業に向けた施設改修整備工事のため、対象団体を限定した開放とし、NF(JPNT)レ、代表選考会)の利用の他、工事に支障のない範囲でテレビ局の番組収録を許可した。国際大会1大会、国内大会6大会誘致を目標としていたところ、国内3大会誘致(4月日本代表選考会/10月NHK杯・全日本)、自主事業2大会実施(「東京バドリングゲームス」として定番化する予定。スラローム・レースラフティング・カヌー・フリースタイル)の実績となった。	
	事業の取組		配点	評価	評価の内容
	事業計画通りのサービスが提供されているか				
	(1) スポーツ振興事業又は障害者スポーツ振興事業等の実施状況	×2	◎	(1)記録会「東京バドリングゲームス」は当初、事業計画上自主事業として計画していた。2日間実施するなど精力的に取り組んだ結果、事業計画を上回る1日はスポーツ振興事業として追加実施することができた。	
	(2) 自主事業の実施状況	×2	◎	(2)ラフティングツアーは小学1年生から参加可能。親子連れから高齢者(70代)、障害者など幅広い多様な利用者にご参加いただいた。また計画では年間133回実施予定のところ年間155回実施、実施回数を増やしより多くの方にご参加いただく機会を創出した。	
	(3) 利用者に対するサービス提供事業の実施状況	×2	○	(8)クリスマスイベントの時にラフティングと観覧車の共通チケットを販売した。ガイドを職員がやることで、人件費を削減し、観覧車代を含めても黒字になるよう工夫した。葛西臨海公園主催の「かさいりんかいこうえんウォークラリー」に協力、公園周遊イベントのチェックポイントの1つとして参画した。JR東日本との連携事業として、イベントサブスクリプションサービス「Sonoligo」に水上遊具を掲載。Bumbと連携し、パンフレットの相互配架を行っている。チルドレンファーストの取り組みの一環として、子供たちの水難事故防止を啓蒙する活動を実施。7月に「こどもたちにはライジャケ」を代表森重さんをお招きし講話を開催、またライフジャケット着用体験プログラムも実施。	
	(4) 利用者ニーズの把握	×2	○	都の要請を踏まえ、シティキャストの東京大会以降の活用に協力(総勢20名以上)。	
	(5) サービス向上に向けた取組	×2	○		
(6) 苦情等への対応	×1	○			
(7) 利用促進への取組	×2	○			
(8) 都の施策への協力等	×2	◎			

※評価： ◎水準を上回る（2点） ○水準どおり（1点） △水準を下回る（0点）

【一次評価結果】

合計点	一次評価結果
43点	A

標準点 ※1	評価基準 ※2	S	46点以上
34点		A	43点～45点
		B	30点～42点
		C	29点以下

※1 標準点は、評価項目が全て中位の評価を受けた場合の得点。

※2 「S」は標準点の1.33倍以上の場合、「A」は標準点の1.25倍以上かつ1.33倍未満の場合、「B」は標準点の0.88倍より大きくかつ1.25倍未満の場合、「C」は標準点の0.88倍以下の場合。

【確認事項】

指定管理者の財務状況について
代表団体である協栄は、民間及び公的施設について、スポーツ施設等を中心に長年管理している実績を有し、東京都スポーツ推進企業にも認定されている(認定番号20150076)。財務的にも、無借金会社としてコロナ禍にあっても安定的に運営されており、問題は検出されていない。

11. 大井ふ頭中央海浜公園ホッケー競技場

管理状況	適切な管理の履行		配点	評価	評価の内容
	協定や事業計画に沿って、施設の安全性を確保しつつ、適切に管理が行われているか				
	(1) 施設・設備の適切な管理（安全性の確保）	×2	○	(2)定期清掃は年2回実施予定としていたが、6月の再開業以降、国際大会や全国規模の大会開催が相次いだため、夏と秋に追加し計4回実施した。利用者からも感謝の声が届いている。人工芝のスポーツトラックターによるメンテナンスは、仕様では年4回しているが、ホッケーの国際大会や全日本クラスの大会開催はもちろん、多目的利用も積極的に促進する施設運営方針であるため、芝の点検・コンディション維持を最優先に考えて、月1回実施している。	
	(2) 施設の清掃（清潔さ）	×1	◎	(5)イベント誘致において、ホッケー競技は、日本リーグ、全日本選手権といった大会に加えて、全国高校選抜大会を初めて誘致することに成功した。ラクロス競技も、日本代表チャレンジマッチや全国地区リーグ戦など申し込みが前年比増で好調である。また、令和3年度利用のなかった競技(アメフト)の普及活動を復活できたほか、タッチラグビーの大会利用も大幅増(1→7大会)で誘致できた。全体計画の23に対して30を超える大会誘致ができています。	
	(3) 施設の警備	×1	○		
	(4) 人員配置及び人材育成の取組	×1	○		
	(5) 施設の提供について	×1	◎		
	法令等の遵守		配点	評価	評価の内容
	個人情報保護、報告等は適切に行われているか				
	(1) 個人情報保護・情報セキュリティ	×1	○	(1)個人情報の安全管理措置についてリスク分析を行い、日常の運用の中でどのようなことに気を付ければよいかチェックリスト化している。	
(2) 情報公開の取組	×1	○	(2)AEDは施設への入口で目に入る場所、事務室の近くに設置している。巡回時には作動確認ランプの確認を行っている。また、ピッチへの出入口にもAED設置の掲示を行っている。備蓄品は在庫管理がしやすいように、備蓄倉庫内に、ホッケーと公園とでスペースを区分して収納している。		
(3) 環境配慮への取組	×1	○			
(4) 各種法令等の遵守	×1	○			
緊急時の対応		配点	評価	評価の内容	
災害や事故への備えが適切に行われているか					
(1) 都への報告・連絡	×1	○	(1)管理運営基準に基づき、公園側とも一体となった連絡体制を整備している。		
(2) 防災への配慮・緊急時対策	×1	○	(2)AEDは施設への入口で目に入る場所、事務室の近くに設置している。巡回時には作動確認ランプの確認を行っている。また、ピッチへの出入口にもAED設置の掲示を行っている。備蓄品は在庫管理がしやすいように、備蓄倉庫内に、ホッケーと公園とでスペースを区分して収納している。		
(3) 事故への対応	×1	○			
適切な財務運営・財産管理		配点	評価	評価の内容	
適切な財務運営・財産管理が行われているか					
(1) 収支状況（安定的な運営）	×2	◎	(1)ホッケー場はLED化していることから、電気の基本料金の公園施設との按分ルールを電気容量から使用量に見直したことで、光熱水費を大きく削減することができた。また消耗品は、在庫を多く持たず、必要な分だけ追加発注を行うようにしている。協定額は、選定時の提案額から下がっていないが、提案時にはない多目的コートや植栽、競技用マーカの維持業務やコロナ対策が増えている。		
(2) 経理処理	×1	○			
(3) 物品の管理	×1	○			

事業効果	利用状況		配点	評価	評価の内容
	利用促進効果				
	(1) 利用状況	×2	◎	(1)土日祝日をはじめ、夏休み、年末年始休暇、春休み期間の稼働が高い。ホッケー大会23大会の目標に対し、26大会の開催ができた。そのほか、ラクロス大会を7大会開催できており、計33大会の開催ができています。ホッケー競技にフォーカスすると、6月後半からの再開業、コロナ禍による大会規模の縮小や観客数が制限されていた、といった事情がある中、2月末までに大会開催で約51,000人の来場があった。この他に、ラクロス競技では計画値を上回る約18,000人の来場があった。	
	事業の取組		配点	評価	評価の内容
	事業計画通りのサービスが提供されているか				
	(1) スポーツ振興事業又は障害者スポーツ振興事業等の実施状況	×2	○	(1)ブラインドサッカーの体験会を開催した。そのほか、スポーツを通じて健康づくり、仲間づくりの場を提供する体幹トレーニング・親子体操・ランニング教室の開催や、高校・大学のプレーヤー向けにテクニク向上を目標としたラクロスクリニックを開催している。健康づくりのカリキュラムは、小規模なレッスンのため、参加者の満足度も高かった。	
	(2) 自主事業の実施状況	×2	◎	(2)再開業イベント、スポーツの日イベントにおける競技観戦、体験会の開催のほか、夢見るホッケー教室、タッチラグビー講習会、ラクロス体験会を開催した。本格的な自主事業は令和4年度からの開催であるが、都度アンケート回答をお願いしており、ご満足の回答が多い。	
	(3) 利用者に対するサービス提供事業の実施状況	×2	○	(8)大井スポーツセンタースタッフと連携し、ホッケー場担当者不在の際も施設利用に支障のないような体制を整えている。大田スタジアムとは相互に大会開催日の共有を行っている。また、ホッケー等の有観客試合の際にも、運営が円滑に進むよう、場内動線やマナーアップ、駐車場利用等に関して情報交換を行っている。令和5年度予約を受け付けた大田区のランニングイベントは、サブピッチと大田スタジアムとが合同会場として選定された。ワクション・キャンペーンに積極的に協力し、8月と12月に当選者を受け入れ、施設内や練習ピッチの見学、競技解説付きの試合観戦とプレミア感のある観戦機会を提供した。この経験や来場者の反応がきっかけとなって、アーカイブ資産の企画展示や見学ツアーの開催を事業計画に組み込むこととなった。	
	(4) 利用者ニーズの把握	×2	○		
	(5) サービス向上に向けた取組	×2	○		
(6) 苦情等への対応	×1	○			
(7) 利用促進への取組	×2	○			
(8) 都の施策への協力等	×2	◎			

※評価： ◎水準を上回る（2点） ○水準どおり（1点） △水準を下回る（0点）

【一次評価結果】

合計点	一次評価結果
44点	A

標準点 ※1	評価基準 ※2	S	46点以上
34点		A	43点～45点
		B	30点～42点
		C	29点以下

※1 標準点は、評価項目が全て中位の評価を受けた場合の得点。

※2 「S」は標準点の1.33倍以上の場合、「A」は標準点の1.25倍以上かつ1.33倍未満の場合、「B」は標準点の0.88倍より大きくかつ1.25倍未満の場合、「C」は標準点の0.88倍以下の場合。

【確認事項】

指定管理者の財務状況について
主に日比谷花壇グループでの構成であり、一部に経営が悪化しているが、借入金の負担がないものも多く、特に問題は見られない。

特命要件の継続状況
公園の指定管理者が、競技施設を含め、一体的に管理運営を行っている。維持管理の一歩などによって効率化を図るためには、公園と一体的に管理運営していく必要がある。なお、次期選定は公園管理者と併せて公募にて実施。

12. 東京アクアティクスセンター

管理 状 況	適切な管理の履行			評価の内容
	協定や事業計画に沿って、施設の安全性を確保しつつ、適切に管理が行われているか			
	(1) 施設・設備の適切な管理（安全性の確保）	×2	○	
	(2) 施設の清掃（清潔さ）	×1	○	
	(3) 施設の警備	×1	○	
	(4) 人員配置及び人材育成の取組	×1	○	
	(5) 施設の提供について	×1	○	
	法令等の遵守			
	個人情報保護、報告等は適切に行われているか			
	(1) 個人情報保護・情報セキュリティ	×1	○	
	(2) 情報公開の取組	×1	○	
	(3) 環境配慮への取組	×1	○	
(4) 各種法令等の遵守	×1	○		
緊急時の対応				
災害や事故への備えが適切に行われているか				
(1) 都への報告・連絡	×1	○		
(2) 防災への配慮・緊急時対策	×1	○		
(3) 事故への対応	×1	○		
適切な財務運営・財産管理				
適切な財務運営・財産管理が行われているか				
(1) 収支状況（安定的な運営）	×2	○		
(2) 経理処理	×1	○		
(3) 物品の管理	×1	○		

事業 効果	利用状況			評価の内容
	利用促進効果			
	(1) 利用状況	×2	-	
	事業の取組			
	事業計画通りのサービスが提供されているか			
	(1) スポーツ振興事業又は障害者スポーツ振興事業等の実施状況	×2	-	
	(2) 自主事業の実施状況	×2	-	
	(3) 利用者に対するサービス提供事業の実施状況	×2	-	
	(4) 利用者ニーズの把握	×2	○	
	(5) サービス向上に向けた取組	×2	○	
(6) 苦情等への対応	×1	○		
(7) 利用促進への取組	×2	○		
(8) 都の施策への協力等	×2	○		

※評価： ◎水準を上回る（2点） ○水準どおり（1点） △水準を下回る（0点）

【一次評価結果】

合計点	一次評価結果
26点	B

標準点※1	評価基準※2	S	35点以上
26点		A	33点・34点
		B	23点～32点
		C	22点以下

※1 標準点は、評価項目が全て中位の評価を受けた場合の得点。

※2 「S」は標準点の1.33倍以上の場合、
「A」は標準点の1.25倍以上かつ1.33倍未満の場合、
「B」は標準点の0.88倍より大きくかつ1.25倍未満の場合、
「C」は標準点の0.88倍以下の場合。

【確認事項】

指定管理者の財務状況について
代表団体である（公財）東京都スポーツ文化事業団は、6期連続赤字ではあるが、公益財団として収益源が確実に確保されており比較的安定的に運営され、（公財）東京都水泳協会も同様である。（株）オーエンスの経営成績は好調であり、セントラルスポーツ（株）は業界全体の経営悪化の中でも堅実な業績を維持した。

13. 東京都パラスポーツトレーニングセンター

【一次評価結果】

合計点	一次評価結果
30 点	B

標準点 ※1	評価基準 ※2	S	40点以上
30 点		A	38点・39点
		B	27点～37点
		C	26点以下

※1 標準点は、評価項目が全て中位の評価を受けた場合の得点。

※2 「S」は標準点の1.33倍以上の場合、
「A」は標準点の1.25倍以上かつ1.33倍未満の場合、
「B」は標準点の0.88倍より大きくかつ1.25倍未満の場合、
「C」は標準点の0.88倍以下の場合。

【確認事項】

指定管理者の財務状況について
代表団体である（公社）東京都障害者スポーツ協会は、公益社団として安定的に運営されており、3期連続黒字となっている。但し、スポーツセンター運営の黒字部分により、各種大会分野や法人会計の負担に活用されるなどバランスはよくない。構成企業である（株）東京スタジアムは赤字企業であるが自治体等の出資により設立されたものであるため、財務上の懸念は小さい。

管理状況	適切な管理の履行		配点	評価	評価の内容
	協定や事業計画に沿って、施設の安全性を確保しつつ、適切に管理が行われているか				
	(1) 施設・設備の適切な管理（安全性の確保）	×2	○	(1)指定管理受託以前の工事や補修記録については、不足する部分があるため、東京都と連携し、情報収集に取り組んでいく。マニュアル類については整備をしている。図面類については、東京都から引き継いだものについて順次整理を進めている。	
	(2) 施設の清掃（清潔さ）	×1	○	(3)警備業務委託者において、東京スタジアム本体にある防災センターに人員を常駐させ、適切な警備体制を取っている。また毎日1回以上、施設稼働時間外に巡回警備を実施している。それ以外の施設人員不在時間帯においてはセンサー類による機械警備を実施し、東京スタジアム本体にある防災センターから遠隔監視警備を行っている。	
	(3) 施設の警備	×1	○	(5)令和4年度のトレーニング室は個人利用について無料開放を実施。その他スポーツ施設は団体予約において先着制にて無料での利用調整を行った。	
	(4) 人員配置及び人材育成の取組	×1	○		
	(5) 施設の提供について	×1	○		
	法令等の遵守		配点	評価	評価の内容
	個人情報保護、報告等は適切に行われているか				
	(1) 個人情報保護・情報セキュリティ	×1	○	(1)個人情報の保護に関する規程及び個人情報の保護に関する規程施行要綱に則り、受付管理システムにて適正に管理している他、個人利用者並びに団体登録者に対し、個人情報の取り扱いについて登録時に説明している。全ての職員に入職時に研修を実施している他、OJT研修などを通し、個人情報について研修を行っている。	
(2) 情報公開の取組	×1	○	(3)事務室内の未使用エリアや利用していない施設などは消灯し、シャワーの給湯器についても利用者がいるときのみ点けている。障害により体温調節ができない利用者もいるため、空調の設定温度は利用者に合わせて設定をしている。		
(3) 環境配慮への取組	×1	○			
(4) 各種法令等の遵守	×1	○			
緊急時の対応		配点	評価	評価の内容	
災害や事故への備えが適切に行われているか					
(1) 都への報告・連絡	×1	○	(1)事故等が発生した場合の報告体制については、「東京都生活文化スポーツ局スポーツ施設部所管既存施設 緊急連絡網」により報告する。また、コンソーシアムとして双方の緊急連絡網に連絡系統を明記している。		
(2) 防災への配慮・緊急時対策	×1	○	(2)安否確認サービスに登録し、災害発生時に各自の安否確認をクラウド上で確認できるシステムを導入している。		
(3) 事故への対応	×1	○			
適切な財務運営・財産管理		配点	評価	評価の内容	
適切な財務運営・財産管理が行われているか					
(1) 収支状況（安定的な運営）	×2	○	(1)指定管理料の執行及び見込みについては、効率的な運営により年度計画通り執行している。		
(2) 経理処理	×1	○	(3)引き渡し時に納品された「調達物品一覧」にて管理。今後、「物品取扱要領」に基づき物品取扱責任者を設置し、物品を常に良好な状態で維持・保全するとともに、施設の運営を円滑に行うため、保全物品・購入物品・取得物品に区分した物品一覧表等を備え、常に数量・使用場所・使用状況等の把握をしていく。		
(3) 物品の管理	×1	○			

事業効果	利用状況		配点	評価	評価の内容
	利用促進効果				
	(1) 利用状況	×2	○	(1)令和4年度、個人利用者数20人、団体利用コマ数6コマ（令和5年3月分のみ）。	
	事業の取組		配点	評価	評価の内容
	事業計画通りのサービスが提供されているか				
	(1) スポーツ振興事業又は障害者スポーツ振興事業等の実施状況	×2	○	(1)事業計画書の通り、令和5年3月22日から31日まで、トレーニング室無料開放事業を実施した。様々な障害当事者や健康者など多様な人が利用した。	
	(2) 自主事業の実施状況	×2	-	(3)自動販売機の設置事業として、自動販売機を1階ロビーに2台設置している。個人ロッカー及び団体ロッカー設置事業については、実施にかかる備品の購入や制度の準備を行い、令和5年度より実施予定。ケータリング事業については、販売を担当する障害者福祉施設との打合せを重ね、令和5年度より実施予定。令和5年度に実施する利用者アンケートや日々の利用者からの要望等から定期的に事業の見直しを行う予定。	
	(3) 利用者に対するサービス提供事業の実施状況	×2	○	(5)団体利用の獲得に向けた利用に関する周知も積極的に行った。多様な利用者に対して見やすい高さでの掲示物の掲示や、受付機の設置をしている。また、各階にオストメイト対応の多目的トイレの設置、更衣室に座面の高い、広いスペースを用意するなど、車いす利用者が利用しやすい環境を整えている。トレーニング室のマシンについては視覚障害者が使いやすいようにテープを貼る等の工夫をしている。	
	(4) 利用者ニーズの把握	×2	-	(7)令和4年度はホームページを活用して広報を行った。令和5年度はTwitterの活用や、コンソーシアムを組んでいる（株）東京スタジアムの発刊する情報誌への情報掲載、近隣3市（調布市、府中市、三鷹市）等とも広報等で連携する予定。ホームページについては施設予約に関する情報を定期的に更新するとともに、リアルタイムでの情報発信ができるよう体制を整えている。	
	(5) サービス向上に向けた取組	×2	○		
(6) 苦情等への対応	×1	○			
(7) 利用促進への取組	×2	○			
(8) 都の施策への協力等	×2	○			

※評価： ◎水準を上回る（2点） ○水準どおり（1点） △水準を下回る（0点）

14. 東京都障害者総合スポーツセンター

【一次評価結果】

合計点	一次評価結果
34点	B

標準点 ^{※1}	評価基準 ^{※2}	S	43点以上
32点		A	40点～42点
		B	29点～39点
		C	28点以下

※1 標準点は、評価項目が全て中位の評価を受けた場合の得点。

※2 「S」は標準点の1.33倍以上の場合、
「A」は標準点の1.25倍以上かつ1.33倍未満の場合、
「B」は標準点の0.88倍より大きくかつ1.25倍未満の場合、
「C」は標準点の0.88倍以下の場合。

【確認事項】

指定管理者の財務状況について
代表団体である（公社）東京都障害者スポーツ協会は、公益社団として安定的に運営されており、3期連続黒字となっている。但し、スポーツセンター運営の黒字部分により、各種大会分野や法人会計の負担に活用されるなどバランスはよくない。

特命要件の継続状況
団体のノウハウを活用して、個々の利用者ニーズに的確に応え、きめ細かいサービスを提供している。また、都の障害者スポーツ施策に対して適切な助言を行っている。

管理状況	適切な管理の履行	配点	評価	評価の内容
	協定や事業計画に沿って、施設の安全性を確保しつつ、適切に管理が行われているか			
	(1) 施設・設備の適切な管理（安全性の確保）	×2	△	(1)日常点検について、東京都維持保全業務標準仕様書に定められた回数が確認できなかった。定期点検報告書の中に指摘がある事項について、数回継続して指摘されている事項があり、対応状況が不明の状況。また、故障不具合について、修理報告はあるが、故障や不具合の記録が整理されていないため、対応理由や履歴を追えない状況であった。日常設備保守目視点検表や各種定期点検について、現状は何をもって、点検表にシ点を記入しているか等不明瞭であるため、マニュアルを整備する必要がある。
	(2) 施設の清掃（清潔さ）	×1	○	(4)障がい者スポーツ指導員（初級・中級・上級・スポーツコーチ）及び健康運動指導士、介護予防運動指導員等の有資格者を配置している。センター運営に必要な資格取得に際して当協会の職員資格取得助成制度を活用している。
	(3) 施設の警備	×1	○	
	(4) 人員配置及び人材育成の取組	×1	○	
	(5) 施設の提供について	×1	○	
	法令等の遵守	配点	評価	評価の内容
	個人情報保護、報告等は適切に行われているか			
	(1) 個人情報保護・情報セキュリティ	×1	△	(1)業務上、多くの個人情報を扱っているため採用時に職員はもとより実習生やボランティア、委託業者等、利用者に関わるすべての関係者に研修を行っている。データベースにある個人情報は、漏えい防止のため、アクセス管理により厳重な管理を講じている。また、ネットワーク・ファイルサーバーのセキュリティ対策を強化するため、アクセスログ取得機能を導入している。
(2) 情報公開の取組	×1	○	(3)館内シャワーヘッドをすべて節水型で対応することで、節水に努めている。令和4年度より、電気の需給業者について、東京都「グリーン電気」入札等参加条件取扱要領からグリーン電気需給業者と契約し、供給電力量の30%を再生エネルギーにするとともに100%で供給している。	
(3) 環境配慮への取組	×1	○		
(4) 各種法令等の遵守	×1	○		
緊急時の対応	配点	評価	評価の内容	
災害や事故への備えが適切に行われているか				
(1) 都への報告・連絡	×1	○	(2)東日本大震災を教訓とし、災害活動相互応援協定を結んでいる近隣施設（北療育医療センター・北特別支援学校）及び、令和5年度以降に協定締結を予定している王子特別支援学校と合同で大地震を想定した総合訓練（館内放送、119番通報、避難放送、初期消火、避難誘導、救護、四施設での無線連携、相互応援員の派遣等）を実施した。	
(2) 防災への配慮・緊急時対策	×1	○		
(3) 事故への対応	×1	○		
適切な財務運営・財産管理	配点	評価	評価の内容	
適切な財務運営・財産管理が行われているか				
(1) 収支状況（安定的な運営）	×2	◎	(1)調達案件については財務会計規程に基づき、競争入札を行うことで、より低廉な業者を選定し、コスト削減に努めることで指定管理料を効率的に執行している。また、管理運営業務の改善に努め、委託内容を見直す等、年度協定額内でおさまるように管理している。なお、令和4年度は世界情勢の影響により光熱水費が高騰していることから、節電・節水の取組をさらに強化している。	
(2) 経理処理	×1	○		
(3) 物品の管理	×1	○		

事業効果	利用状況	配点	評価	評価の内容
	利用促進効果			
	(1) 利用状況	×2	○	(1)個人利用者は、例年4月から増加し、11月から減少する傾向にあるが、令和4年度は、年間を通じ徐々に増加していた。新規登録者についても、徐々に増加しており、コロナ以前の利用者や新規で利用登録をした方の利用も徐々に増えてきている。10月より、団体利用の定員拡大をした。利用団体も、定期的に活動している団体も増え、活動を再開する団体が多くなった。新規の団体は、年間合計8団体の利用があった。
	事業の取組	配点	評価	評価の内容
	事業計画通りのサービスが提供されているか			
	(1) スポーツ振興事業又は障害者スポーツ振興事業等の実施状況	×2	◎	(1)これまでスポーツ活動を行っている方がコロナ禍の影響で、スポーツへの興味関心を失わないようにすることに加えて、これからスポーツ活動を始めたい方に対してスポーツにチャレンジする場や機会を減少させないように、広報を活用した取組、地域及び医療・福祉・教育関係との連携を行った。また、センター見学会をオンラインで実施することで、今までは遠方から来なかった方々の参加が可能となるため、広くセンターを周知することにつながった。
	(2) 自主事業の実施状況	×2	-	(6)懇談会やアンケート調査等の意見については、直ちに対応できるものは対応するほか、令和5年度以降の事業計画に反映するなど必要なものは確実に実施している。投書箱などで利用者から提出された要望・苦情については、「すぐに対応可能なもの」「今後対応を検討するもの」「対応が困難なもの」といった形で、回答内容を速やかにセンター内に掲示し情報公開し、「すぐに対応可能なもの」から、きめ細かく業務へ反映している。
	(3) 利用者に対するサービス提供事業の実施状況	×2	○	情報共有が必要な案件については対応記録を作成し、受付業務システム（利用者情報のデータベース）と連動させる仕組みづくりを行った。利用者個々のデータベースから直接、対応記録にアクセスできることで、利用や問い合わせに際し、迅速・的確な対応へつなげられている。
	(4) 利用者ニーズの把握	×2	○	
	(5) サービス向上に向けた取組	×2	○	
(6) 苦情等への対応	×1	◎		
(7) 利用促進への取組	×2	○		
(8) 都の施策への協力等	×2	○		

※評価： ◎水準を上回る（2点） ○水準どおり（1点） △水準を下回る（0点）

15. 東京都多摩障害者スポーツセンター

【一次評価結果】

合計点	一次評価結果
35点	B

標準点 ※1	S	43点以上
32点	A	40点～42点
	B	29点～39点
	C	28点以下

※1 標準点は、評価項目が全て中位の評価を受けた場合の得点。

※2 「S」は標準点の1.33倍以上の場合、
「A」は標準点の1.25倍以上かつ1.33倍未満の場合、
「B」は標準点の0.88倍より大きくかつ1.25倍未満の場合、
「C」は標準点の0.88倍以下の場合。

【確認事項】

指定管理者の財務状況について
代表団体である（公社）東京都障害者スポーツ協会は、公益社団として安定的に運営されており、3期連続黒字となっている。但し、スポーツセンター運営の黒字部分により、各種大会分野や法人会計の負担に活用されるなどバランスはよくない。

特命要件の継続状況
団体のノウハウを活用して、個々の利用者ニーズに的確に応え、きめ細かいサービスを提供している。また、都の障害者スポーツ施策に対して適切な助言を行っている。

管理状況	適切な管理の履行	配点	評価	評価の内容
	協定や事業計画に沿って、施設の安全性を確保しつつ、適切に管理が行われているか			
	(1) 施設・設備の適切な管理（安全性の確保）	×2	△	(1)不良箇所については、不具合報告書がないもの、また写真の添付が不完了が不明なものがあり、確認ができないものもあった。 (5)新型コロナウイルス感染症への対応のため、感染防止対策を徹底しながらの運営とし、時間帯による完全入替制(3/30より入替制廃止)、ソーシャルディスタンスの確保、施設消毒の徹底、入館前の体調管理(1/22より体調管理票廃止、スタッフによる口頭での確認に変更)など感染症対策を徹底し施設の運営を行った。東京都の要請により、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会1周年記念事業名を冠として、水泳大会を実施した。パラリンピックレガシーとしての意識づけのもと実施している。
	(2) 施設の清掃（清潔さ）	×1	○	
	(3) 施設の警備	×1	○	
	(4) 人員配置及び人材育成の取組	×1	○	
	(5) 施設の提供について	×1	○	
	法令等の遵守	配点	評価	評価の内容
	個人情報保護、報告等は適切に行われているか			
	(1) 個人情報保護・情報セキュリティ	×1	○	(1)受付業務システムにより適正に管理しているほか、事業等への申込書は施錠のできる指定場所へ保管をしている業務上、多くの個人情報を取扱っているため採用時に職員はもとより実習生やボランティア、委託業者等、利用者に関するすべての関係者に研修を行っている。
	(2) 情報公開の取組	×1	○	(2)全館LED照明を設置。太陽光発電を導入し、事務所のPC、デジタルサイネージにて発電量の確認が可能になっている。グリーン電気需給業者と契約し、供給電力量の30%を再生エネルギーにすることを100%で供給している。
	(3) 環境配慮への取組	×1	○	
(4) 各種法令等の遵守	×1	○		
緊急時の対応	配点	評価	評価の内容	
災害や事故への備えが適切に行われているか				
(1) 都への報告・連絡	×1	○	(2)対応マニュアルにおいては年に1度の見直し及び点検の整備を行っている。また、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い、発症者及び疑いのある職員が発生した場合に備えてフローチャートの作成を行った。安否確認サービスに登録し、災害発生時に各自の安否確認をクラウド上で確認できるシステムを導入した。	
(2) 防災への配慮・緊急時対策	×1	○		
(3) 事故への対応	×1	○		
適切な財務運営・財産管理	配点	評価	評価の内容	
適切な財務運営・財産管理が行われているか				
(1) 収支状況（安定的な運営）	×2	◎	(1)基本協定第16条及び年度協定第4条に基づき、指定管理料の執行及び見込みについては、効率的な運営により年度計画通り執行している。一般競争入札にて厳正に委託業者を選定している。また、指定管理料内で執行するため消耗品購入は最低限の支出に留め、修繕・工事も優先順位をつけて施工している。	
(2) 経理処理	×1	○		
(3) 物品の管理	×1	○		

事業効果	利用状況	配点	評価	評価の内容
	利用促進効果			
	(1) 利用状況	×2	○	(1)新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い、利用率に制限をかけて運用を開始した。令和3年度と比較し、24,648人増加し、38,019人となっている。
	事業の取組	配点	評価	評価の内容
	事業計画通りのサービスが提供されているか			
	(1) スポーツ振興事業又は障害者スポーツ振興事業等の実施状況	×2	◎	(1)コロナ禍に開始されたオンライン教室は継続実施、同時に、参集型とオンライン型とを合わせたハイブリッド型の教室を導入し、個人の裁量により教室参加ができる仕組みとすることで障害のある方の運動機会を構築した。新型コロナウイルス感染状況を鑑みて段階的に施設の開放や利用人数について変更拡大し、運用を行っている。事業においては、教室後に参加者に対するアンケート調査を実施し、教室に対しての満足度や、要望の聞き取りの他、今後の実施したい内容について聞き取りを行っている。また、事業担当者においては、事前準備はもとより事後報告書の作成及び保管をすることで事業へのフィードバックを実施、検証している。
	(2) 自主事業の実施状況	×2	-	(6)懇談会やアンケート調査等の意見については、直ちに対応できるものは対応するほか、令和5年度以降の事業計画に反映するなど必要なものは確実に実施している。利用者から寄せられた苦情に対し、公平かつ中立的な立場から解決するための調整機関として利用者の声調整委員会を設置し、定期的に委員会を開催している。また、委員には信憑性と解決能力を高めるために、法律、福祉、障害者スポーツに関係する有識者や専門家を活用している。情報共有が必要な案件については対応記録を作成し、受付業務システム(利用者情報のデータベース)と連動させる仕組みづくりを行った。利用者個々のデータベースから直接、対応記録にアクセスできることで、利用や問い合わせに際し、迅速・的確な対応へとつながっている。
	(3) 利用者に対するサービス提供事業の実施状況	×2	○	
	(4) 利用者ニーズの把握	×2	○	
	(5) サービス向上に向けた取組	×2	○	
(6) 苦情等への対応	×1	◎		
(7) 利用促進への取組	×2	○		
(8) 都の施策への協力等	×2	○		

※評価： ◎水準を上回る（2点） ○水準どおり（1点） △水準を下回る（0点）